



IV 区計画



1 区計画の目的

本市では、市民の暮らしに身近な7つの区役所で、市民サービスを効率的、効果的かつ総合的に提供するとともに、参加と協働による暮らしやすい地域社会づくりを進めています。

少子高齢化の進展や人口減少への転換などの社会状況の変化に伴い、それぞれの地域で暮らす市民の生活も大きく変わりつつあり、身近な行政サービスの提供に加えて、市民が主体的に地域におけるさまざまな活動に参加し、お互いに支え合うしくみづくりが必要となっています。

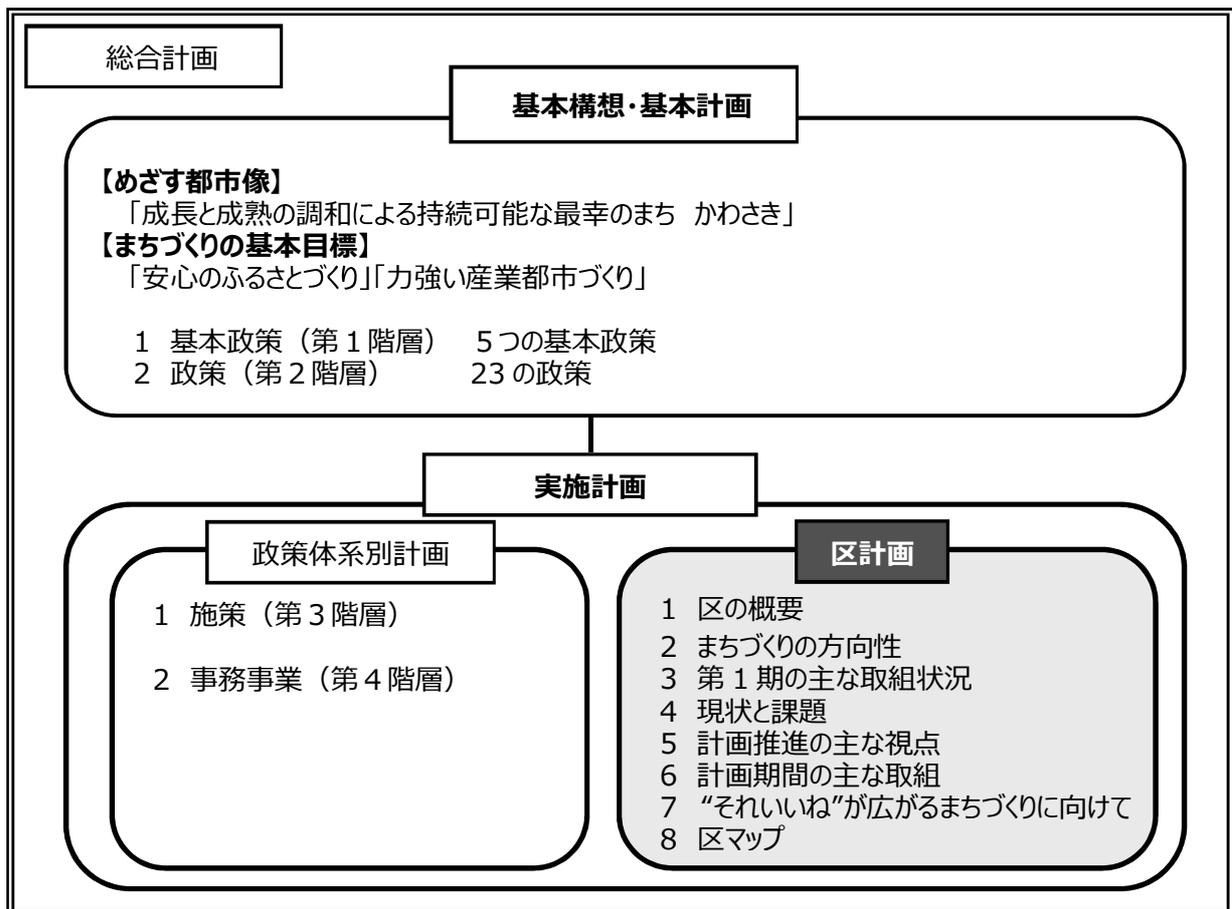
区計画は、このように地域の課題が複雑化・多様化する中で、それぞれの地域が持つ魅力や特性を活かし、市民・地域・行政など多様な主体が連携しながら、地域課題の解決に向けた参加と協働によるまちづくりを進めることを目的として策定しているものです。

2 区計画の位置づけ

実施計画では、それぞれの区における都市基盤整備や交通体系の構築、全市共通の福祉・子育て支援などの市民サービスを政策体系別に示しています。

区計画では、市民の暮らしに身近な区役所が市民や地域で活動する団体などと協働で行う地域課題の解決に向けた主要な取組を中心に示します。

区計画の位置づけイメージ



※ 「最幸」とは、川崎を幸せのあふれる「最も幸福なまち」にしていきたいという思いを込めて使用しています。

総論
10年戦略
基本政策1
基本政策2
基本政策3
基本政策4
基本政策5
区計画
進行管理・評価

3 区計画の構成

第 2 期実施計画における区計画の構成については、第 1 期実施計画で示した内容を中心に、策定時からの環境の変化等も踏まえながら、必要な項目を記載します。

第 2 期実施計画を構成する主な項目

区 分	内 容
区の概要	区の地形、歴史や文化、区名の由来など、区の特徴や特性を記載します。
まちづくりの方向性	区の現状と課題を踏まえて、身近な区役所において、参加と協働で進める中期的なまちづくりの方向性を記載します。
第 1 期の主な取組状況	第 1 期実施計画期間（平成 28（2016）～29（2017）年度）での主な取組状況を記載します。
現状と課題	区の地理的な状況や人口・世帯構成、地域コミュニティの変化などを踏まえた地域課題を記載します。
計画推進の主な視点	第 1 期実施計画からの環境変化を踏まえ、第 2 期実施計画期間（平成 30（2018）～33（2021）年度）に推進する計画の策定における主な視点を記載します。
計画期間の主な取組	区の現状と課題を踏まえ、第 2 期実施計画期間（平成 30（2018）～33（2021）年度）に実施する主要な取組を記載します。
“それいいね”が広がるまちづくりに向けて	地域課題の解決に向けて市民や団体等と協働・連携する主な取組を記載します。
区マップ	それぞれの区内で展開される道路や保育所などの生活基盤の整備状況等をマップで示します。

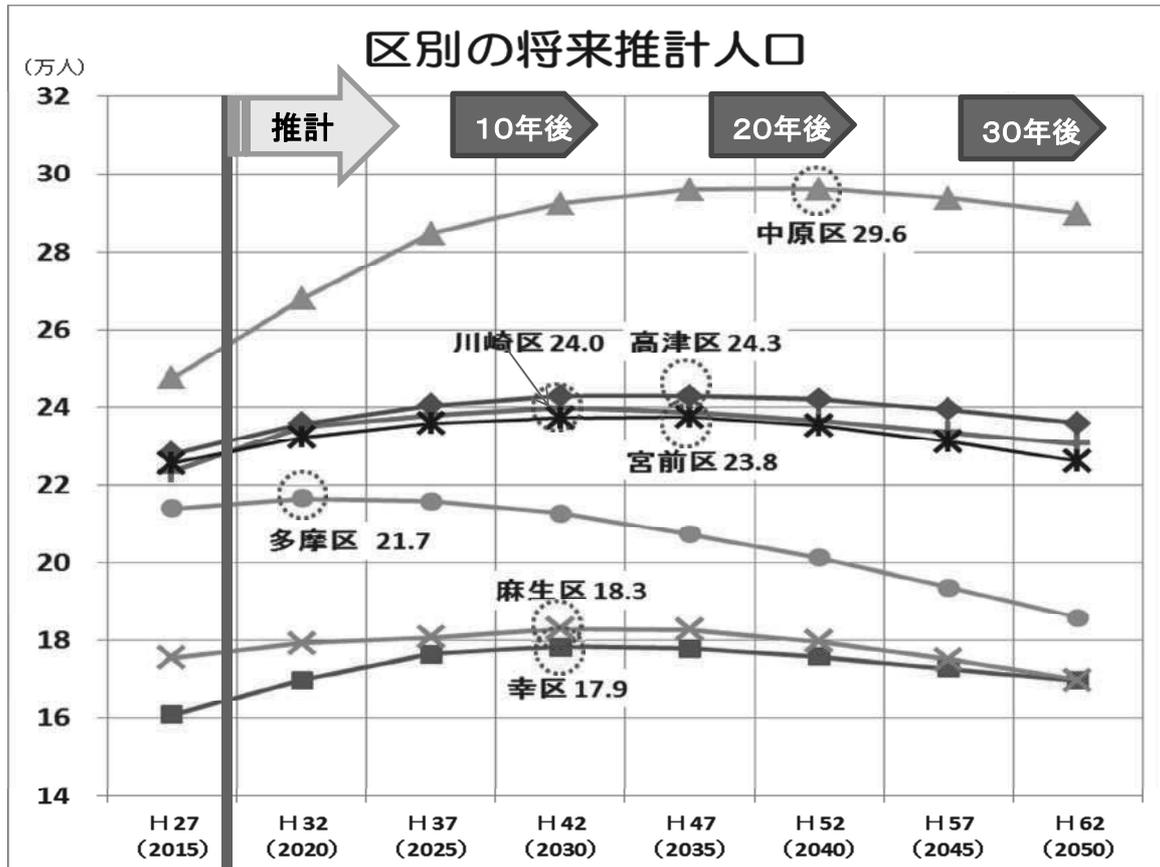


4 区計画策定にあたっての主な現状と課題

(1) 人口と高齢化の推移

本市の将来人口推計では、多摩区が最も早くピークを迎え、平成 32（2020）年を境に人口減少に転じる予測です。市全体の人口ピークは平成 42（2030）年で、最も遅い中原区においても、平成 52（2040）年以降、人口が減少に転ずることが見込まれています。

また、大都市の中で平均年齢が若い本市においても高齢化率は急速に上昇しており、平成 37（2025）年には中原区と高津区を除く5区で、超高齢社会となる 21%を超え、平成 52（2040）年以降にはすべての区が超高齢社会となること見込まれています。



区別の高齢化率の推移（推計）

	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)
川崎区	21.9%	22.8%	23.0%	23.5%	24.8%	27.1%	28.5%	29.6%
幸区	22.4%	23.4%	23.3%	23.9%	25.7%	28.7%	31.1%	33.0%
中原区	15.1%	15.6%	16.2%	18.0%	20.9%	24.5%	27.6%	30.6%
高津区	17.4%	19.3%	20.4%	22.6%	25.7%	29.1%	31.5%	33.4%
宮前区	20.4%	22.6%	24.3%	26.7%	29.8%	32.4%	33.9%	34.3%
多摩区	18.7%	20.8%	22.5%	24.9%	27.9%	30.6%	32.5%	34.0%
麻生区	22.3%	24.6%	26.5%	28.5%	31.3%	34.4%	36.4%	36.9%
全市平均	19.5%	21.0%	21.9%	23.6%	26.2%	29.2%	31.3%	32.8%

※平成 27（2015）年は国勢調査の結果で、平成 32（2020）年以降は推計値です。

資料：川崎市将来人口推計

※高齢化率が 21%を超えている箇所に網かけをしています。（21%を超えた社会は「超高齢社会」と定義されています。）

(2) めざす都市像の実現に向けた区役所の役割

これからの区役所は主に「安心のふるさとづくり」に向けて、身近な課題は身近なところで解決するという補完性の原則に基づく地域に密着した行政機関として、これまでも担ってきた行政サービスの提供に加え、地域の実情に応じながら、市民同士のつながりやコミュニティづくりを通じて、市民の主体的な取組を促す役割を果たしていくことが求められています。

【「めざすべき区役所像」に基づく取組】

(1) 市民目線に立った行政サービスを総合的に提供する区役所

- ① 総合行政機関としての着実なサービス提供の推進
- ② 市民感覚・現場起点による継続的な区役所サービス向上の推進
- ③ 窓口サービスの機能再編
- ④ 計画的な庁舎整備の推進

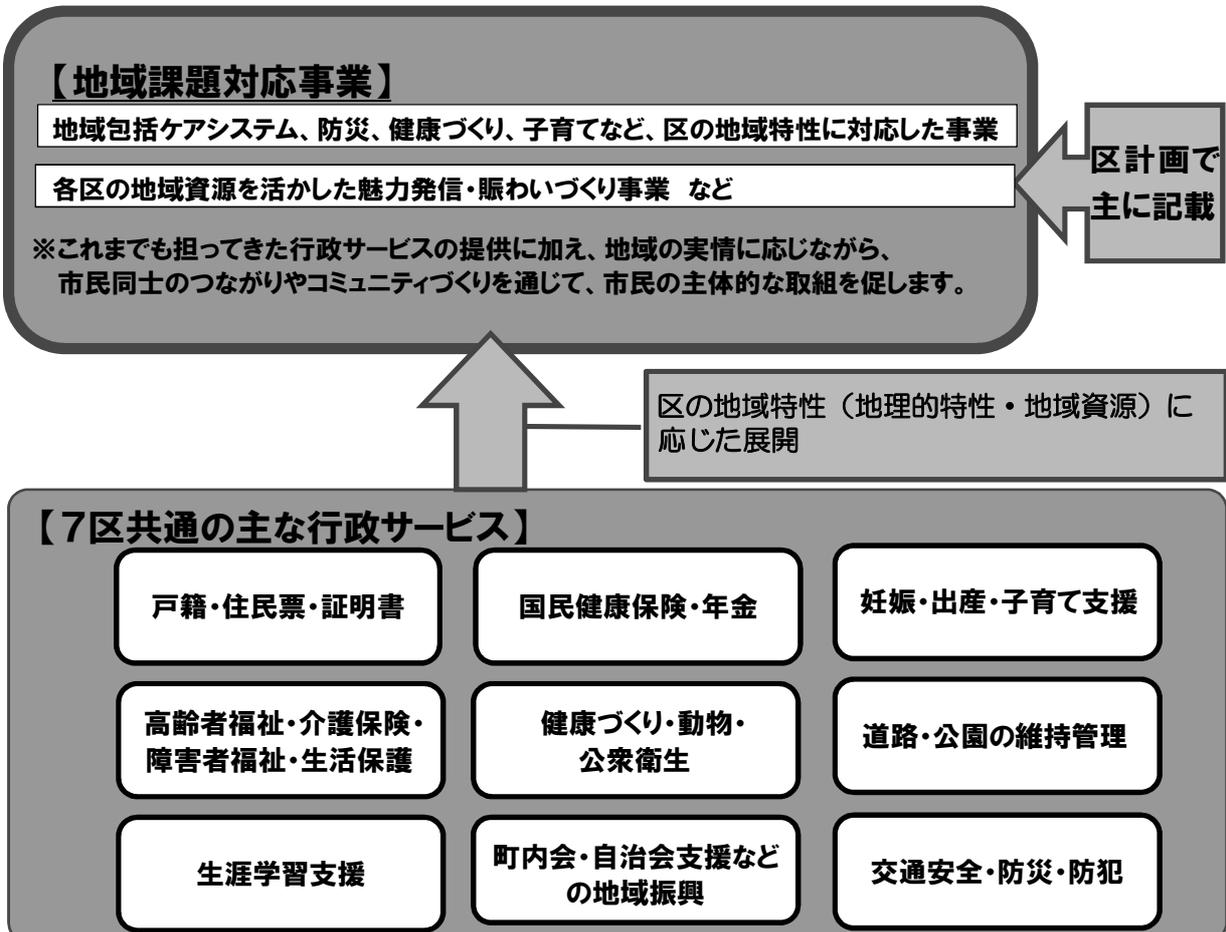
(2) 共に支え合う地域づくりを推進する区役所

- ① 地域づくりに向けた取組の推進
- ② 地域人材への支援と多様な主体間のネットワーク化の推進

(3) 多様な主体の参加と協働により地域の課題解決を図る区役所

- ① 地域課題対応事業の活用
- ② 区における中間支援機能の検討
- ③ 地域づくりに向けた場の確保

【区役所が行う主な行政サービス】





(3) 地域包括ケアシステムの更なる推進

平成 28（2016）年 4 月、各区役所に地域みまもり支援センターを設置し、区における地域包括ケアシステムの構築に向けた取組を推進しています。地域みまもり支援センターでは、生活課題を抱える方への適切な対応を図るため、保健師をはじめとする専門多職種が、関係部署や社会福祉協議会、地域包括支援センターなどの関係機関と連携し、必要な支援につなげるとともに、地域ごとのニーズや課題の把握に努めながら、多世代交流などの場づくりや、地域の見守り体制の構築などの地域づくりを進めています。

こうした取組により、各区では、町内会・自治会や民生委員児童委員、ボランティア団体、大学などと連携したそれぞれの地域特性を踏まえた取組が少しずつ形となって動き始めています。

今後、少子高齢化がますます進展する中、子どもから高齢者までを対象とし、個別支援の強化を図るとともに、保健師等が地域に積極的に出向き、地域における多様な主体と顔の見える関係を築きながら、支え合いの地域づくりを進めるなど、「誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができる地域」の実現に向けた区役所の取組が一層求められています。

(4) 地域防災力の更なる強化

区役所では、川崎市地域防災計画に基づき、各区で区地域防災計画を整備するとともに、災害発生時に迅速な初動対応がとれるよう、消防局等の関係機関と連携した本部訓練を実施するなど、区災害対策本部体制の強化を進めています。

また、区民の防災意識の醸成を図るとともに、より実践的な内容を主眼とした区総合防災訓練の実施、避難所運営会議や自主防災組織など地域主体の訓練に対する支援、災害要支援者への対応など、地域と連携した取組を推進しています。

今後、首都直下地震や南海トラフ地震の発生リスクの高まり、近年、多発しているゲリラ豪雨への対応など、区民の生命や財産を守るため、地域の防災拠点である区役所の役割が一層重要になっており、自助・共助（互助）・公助の考えに基づく地域防災力の強化の取組が求められています。

(5) 区における参加と協働による地域課題の解決に向けた「新たなしくみ」の構築

本市では、「参加と協働による地域課題の解決の新たなしくみ」を構築するため、地域のありたい姿や、参加と協働による地域課題の解決の推進に必要なコミュニティ施策などをまとめた「（仮称）今後のコミュニティ施策の基本的考え方」の策定に向けた検討を進めています。

150 万人の大都市である本市は、エリアの範囲が広大で論点も多岐に渡ることから、検討にあたっては「市域レベルの取組」「区域レベルの取組」「地域レベルの取組」の 3 層制で論点整理を行います。

区役所においては、参加と協働の「新たなしくみ」の区域レベルの機能として、区における中間支援のあり方などについて、地域包括ケアシステム構築における地域づくりの取組など、関係局とも連携を図りながら検討していくことが求められています。

「（仮称）今後のコミュニティ施策の基本的考え方」検討方針に基づく検討にあわせて、各区においても「新たなしくみ」構築に向けて、必要な取組を推進していきます。



まちづくりの方向性

誰もが住んで良かったと思える安全・安心のまちづくり

- 川崎区は、古くから東海道川崎宿の宿場町として栄え、臨海部には高度な産業が集積するとともに、市の玄関口である川崎駅周辺は、官公庁や商業・サービス業などが集積する中心市街地として形成されるなど、歴史・文化・産業などの魅力ある地域資源が豊富なまちです。
- このような賑わいと歴史・文化資源との融合により、新たなまちの魅力を創造・発信するとともに、昔ながらの顔の見える関係や地域のつながり・絆を大切にしながら、地域への愛着を持ち、誰もが住んで良かったと思える安全・安心なまちづくりを進めます。



第1期の主な取組状況

● 地域資源を活かしたまちづくりの推進

平成35(2023)年の東海道川崎宿起立400年を見据え、「東海道かわさき宿交流館」を拠点とした江戸風意匠に富んだ街道の景観を創出するなど、川崎区ならではの地域資源を活かした、魅力あるまちづくりを推進するほか、区内のスポーツ団体との連携により、多くの区民にスポーツと触れ合う機会を提供しています。

● 区のイメージアップに向けた環境まちづくりの推進

地域緑化の推進と環境意識の向上を図るため、「区の花(ビオラ・ひまわり)」「区の木(銀杏・長十郎梨)」の活用や、まちの美化推進に向けた啓発活動、落書き防止に向けた取組などを行い、区のイメージアップを推進しています。

● 誰もが安心して、生き生きと暮らせるまちづくりの推進

誰でも気軽に立ち寄れる場づくりとしての「地域の縁側」活動により、地域交流・ふれあいの場づくりを推進するとともに、健康づくりボランティア等と協働した介護予防・健康づくりに取り組み、高齢者等が生き生きと暮らせるまちづくりを推進しています。また、ひとり暮らし等見守り事業や認知症サポーター養成講座の開催などを通じ、地域住民や関係機関・団体が連携した地域包括ケア体制の充実に向けた取組を推進しています。



認知症サポーター養成講座

● 地域における子ども・子育て支援の推進

地域全体で子育て家庭を支える環境づくりに向け、子育て支援の関係者間のネットワーク強化を図るとともに、子育てに関する情報をまとめた「さんぼみち」等を通じた情報発信や、日本語に不慣れな子どもや保護者への支援など、子どもたち一人ひとりの家庭状況に応じた適切な支援に取り組んでいます。

● 安全・安心なまちづくりに向けた地域防災力の向上

自主防災組織等を中心とした地域防災力の強化に向けて、避難所開設・運営訓練の支援や外国人市民を対象とした防災講座の実施のほか、区災害対策本部体制の強化のための区職員の研修・訓練の実施や、津波に対する避難方法の周知、コンビナートの安全対策の啓発などを推進しています。

● 交通安全と自転車対策の推進

自転車事故の防止に向けて、警察・各種交通団体などとの連携による交通安全キャンペーン活動を実施し、交通ルールの遵守及びマナーの実践について広く啓発活動に取り組むほか、放置自転車防止に向けた街頭啓発や小学生の絵画を使用した路面啓発シートの設置により、放置自転車の減少に向けた取組を進めています。



路面啓発シートの設置



現状と課題

●豊かな歴史・文化資源をはじめ、魅力的なイベントなど多くの地域資源があります。

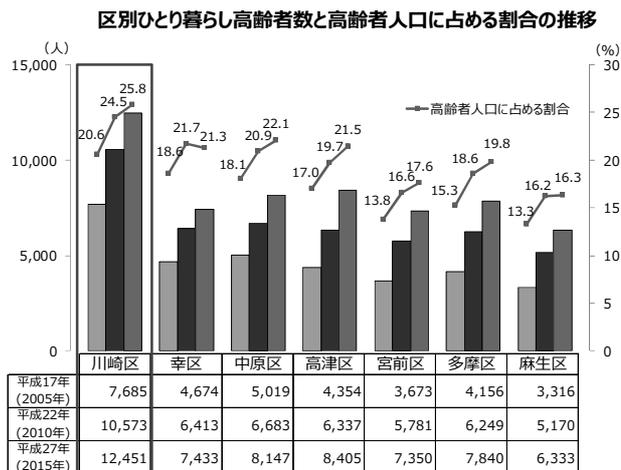
- 区内には、「川崎大師」や、開館以来毎年約5万人の来館者を数える「東海道かわさき宿交流館」等の歴史・文化資源、20世紀の産業技術の発展を今に伝える近代化遺産・産業文化財などが数多くあります。
- また、「スポーツ・文化総合センター（カルツかわさき）」や「富士通スタジアム川崎」などの「観る」、「楽しむ」スポーツ関連の施設があるとともに、「カワサキハロウィン」や「かわさき市民祭り」など、魅力あるイベントが多数開催されています。
- 更なる地域の活性化を図っていくために、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催、川崎駅周辺のまちづくりの進展、羽田連絡道路の開通などを区の魅力発信やイメージアップを図るための好機として、地域資源を活かしたまちづくりや、環境まちづくりの推進が求められています。



賑わいと交流の拠点「東海道かわさき宿交流館」

●高齢者が市内で最も多く、そのうち4人に1人がひとり暮らしです。

- 区内の高齢者数 51,209 人（平成 29（2017）年 9 月末現在）、ひとり暮らし高齢者数 12,451 人（平成 27（2015）年 10 月国勢調査）及び介護や支援が必要な人の数 10,068 人（平成 29 年（2017）年 3 月末現在）は市内で最も多く、今後も高齢化の進展で増加が見込まれています。
- こうしたことから、介護予防などの健康づくり、ひとり暮らし高齢者などの閉じこもりによる孤立化の防止、多様な主体が連携しながら見守り支え合う地域づくりなど、川崎区らしい地域包括ケアシステムの構築に向けた取組を進める必要があります。



●子育て中の若い世代の転入などに伴い、新たな環境で子育てをしている家庭が増えています。

- 核家族や共働き家庭の増加など子育て家庭を取り巻く環境が変化中、大規模マンションの増加などにより、慣れない環境での育児や子育ての孤立化に悩む保護者が増えているほか、ひとり親家庭の数が2,077世帯（平成27（2015）年10月国勢調査）と市内で最も多いことなどから、子どもや子育て家庭を地域で支える環境づくりが求められています。
- また、外国人住民人口が市内で最も多く、日本語に不慣れな子どもや保護者に対する支援や、不登校・ひきこもり等で悩む家庭などに対する支援について、それぞれの家庭状況に応じた適切な対応を進めていく必要があります。



子育て支援イベント（ジョイフルサタデー）



●地域特性を踏まえた地域防災力の向上が必要です。

- 首都直下地震など大規模災害の発生が危惧される中、平成 27（2015）年度区民アンケートにおいて「防災に関する事業」が今後特に力を入れて欲しい事業で最上位となっています。市内で唯一臨海部を有している立地条件や、外国人市民が多いなどの区の特徴を踏まえた対策を進めるとともに、地域、関係機関、隣接区を含む行政が連携して大規模災害に立ち向かう体制の構築や、実践的な訓練等の実施が求められています。
- また、川崎駅周辺や臨海部には多くの企業や商業施設などが集積していることから、災害時の帰宅困難者対策の充実が求められています。



鶴見区と連携した帰宅困難者対策訓練

●自転車を利用しやすいまちですが、より安全に自転車を利用するための取組が必要です。

- 平坦な地形であることから、多くの市民が通勤・通学、買い物等に自転車を利用しており、特に、川崎駅東口周辺に自転車利用が集中しています。そのような中で、平成 28（2016）年中の自転車事故の発生件数は市内で最も多く、神奈川県「自転車交通事故多発地域」に指定されています。
- 自転車利用者への交通ルール遵守やマナー実践の啓発、安全で快適な通行環境の整備、放置自転車対策の推進など、交通事故を減らし、自転車をより安全で快適に利用できるようにするための取組が必要です。

自転車関係事故発生状況（平成 28（2016）年中）

	自転車事故		
	発生件数	死者数	負傷者数
川崎区	216	1	215
幸区	142	0	133
多摩区	135	0	129
中原区	121	0	124
高津区	119	0	111
宮前区	85	0	79
麻生区	81	0	78

資料：神奈川県警察「市区町村別自転車関係事故発生状況」



計画推進の主な視点

- 高齢者数やひとり暮らし高齢者数が市内最多であることなどを踏まえ、川崎区らしい地域包括ケアシステムの構築に向けた取組を進める必要があります。
- 臨海部を有する川崎区の立地条件を踏まえた防災対策や津波対策のほか、洪水対策や外国人市民に向けた災害時の対応など、地域特性を踏まえた地域防災力の向上が求められています。



計画期間の主な取組

地域資源を活かしたまちづくりの推進

主な取組の方向性

「東海道かわさき宿交流館」を拠点とした江戸風意匠に富む景観の形成による賑わいの創出や、区内の産業文化財等を活用した魅力発信の取組を進めるほか、区内の企業等で構成される「企業市民交流事業推進委員会」の取組や「スポーツ・文化総合センター（カルッツかわさき）」などのスポーツ施設を活かして、多様な主体が交流する機会をつくるなど、まちの活性化を図ります。

事業名	事業内容・目標					
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
<p>地域資源を活かしたまちづくり推進事業</p> <p>東海道川崎宿起立400年を迎える平成35(2023)年を見据え、「東海道かわさき宿交流館」を拠点に、市民協働組織等との連携により、東海道川崎宿の歴史・文化資源を活かした事業を実施し、魅力あるまちづくりを推進します。</p>	<p>●「東海道かわさき宿交流館」を拠点とした歴史・文化を活かしたまちづくりの推進</p> <p>・「東海道かわさき宿交流館」の運営</p> <p>継続実施</p> <p>事業推進</p>					
		・リピーター確保に向けた展示の更新及び訪日外国人を意識した展示の検討	・リピーターの確保及び訪日外国人を意識した展示の更新		・平成34(2022)年の区制50周年を見据えた展示の検討	
	<p>●東海道川崎宿起立400年を見据えた事業推進ロードマップに基づく取組の推進</p> <p>・宿起立400年を見据えた取組の検討</p> <p>・事業推進ロードマップの策定</p> <p>・ロードマップに基づく取組の推進</p>					
	<p>●民間企業、商店街等との連携による東海道川崎宿の歴史・文化を活かしたまちづくりの推進</p> <p>○江戸風意匠の街なみの推進</p> <p>・東海道川崎宿フラッグ等の設置、更新</p> <p>・東海道川崎宿フラッグの設置・更新、電柱巻型案内板の更新</p> <p>・ロードマップを踏まえた江戸風意匠の街なみの推進</p>					
	<p>○関連イベントの開催による賑わいの創出</p> <p>・「東海道川崎宿2023まつり」、「旧東海道ウォーク」の開催</p> <p>・「東海道川崎宿2023まつり」、スタンプラリー等の開催</p> <p>→区制50周年と連動した賑わいイベントの検討</p>					
	<p>○地域に伝わるエピソードを活かした魅力発信の推進</p> <p>・「三角おむすびレシビコンテスト」の開催</p> <p>継続実施</p>					
	<p>●平成35(2023)年の「東海道シンポジウム全国大会」の開催に向けた取組の推進</p> <p>・誘致に向けた検討・調整の実施</p> <p>・調整・誘致活動の推進</p> <p>・調整・誘致活動の推進及び全国大会を核とした川崎宿誕生400年記念イベントの検討</p>					
<p>かわさき産業ミュージアム推進事業</p> <p>区内に散在する近代化遺産・産業文化財を活用して区の魅力発信を推進します。</p>	<p>●区内における近代化遺産・産業文化財を活用した取組の推進</p> <p>○かわさき産業ミュージアム講座、ツアーによる魅力発信の推進</p> <p>・講座、ツアーの実施</p> <p>・講座等の効果的な開催方法の検討・実施</p> <p>・講座等の効果的展開</p> <p>事業推進</p>					
	<p>○「かわさき産業ミュージアムガイドブック」を活用した近代化遺産・産業文化財のPRの推進</p> <p>・ガイドブックを活用したPRの推進</p> <p>継続実施</p>					
<p>川崎区企業市民交流事業</p> <p>企業の地域貢献活動の機運を高め、生活市民と企業市民の交流の場づくりや協働による魅力あるまちづくりを進めます。</p>	<p>●企業の地域貢献及び生活市民と企業市民の交流・協働の取組の推進</p> <p>○企業市民交流事業推進委員会の運営</p> <p>H29開催回数：3回</p> <p>開催回数：3回以上</p> <p>開催回数：3回以上</p> <p>開催回数：3回以上</p> <p>開催回数：3回以上</p> <p>事業推進</p>					
	<p>○企業等による中学生を対象とした出前授業の実施</p> <p>H29開催回数：2回</p> <p>開催回数：2回以上</p> <p>開催回数：2回以上</p> <p>開催回数：2回以上</p> <p>開催回数：2回以上</p>					
	<p>●「かわさき区の宝物」を活用した取組の推進</p> <p>・H29ツアー開催回数：3回</p> <p>・「川崎臨海部の夢発見！バスツアー」の効果的開催方法の検討・実施</p> <p>→区制50周年を見据えた「かわさき区の宝物」を活用した魅力発信の取組の検討</p>					
	<p>・「かわさき区の宝物ガイドマップ」を活用した区の魅力発信</p> <p>・「かわさき区の宝物ガイドマップ」の活用</p> <p>・「ウォーキングガイドブック」と一体化した新たなガイドブックの検討</p> <p>・新たなガイドブックの発行、活用</p> <p>・新たなガイドブックの活用</p>					

総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

政策体系別計画

基本政策3

基本政策4

基本政策5

区計画

進行管理・評価

事業名	現状	事業内容・目標				
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
川崎駅周辺落書き対策事業 川崎駅周辺で落書き消しやシール剥がしを実施し、美観向上、環境改善を図ります。	●落書き対策等の環境改善に向けた取組の実施 ・落書き消し及び落書き防止塗装の実施	・落書き消し、シール剥がしの実施及び地域住民との効果的な連携による取組の検討				事業推進
臨海部環境改善事業 臨海部におけるごみの不法投棄・ポイ捨て防止対策を実施し、道路環境の改善・向上を図ります。	●東扇島地区等における道路環境の改善に向けた取組の実施 ・ごみの不法投棄・ポイ捨て防止対策に向けた清掃、植樹の伐採及び除草等の実施	継続実施				事業推進

総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

誰もが安心して、生き生きと暮らせるまちづくりの推進

主な取組の方向性

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、川崎区らしい地域包括ケアシステムの構築に向けた普及啓発や、地域包括ケアシステムに資する地域活動と区民ニーズのマッチングに取り組むとともに、地域交流・世代間交流の場づくりや、区民が主体となった健康づくり・介護予防の活動を促進するための取組を推進します。

政策体系別計画

基本政策3

基本政策4

基本政策5

区計画
進行管理・評価

事業名	現状	事業内容・目標				
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
地域包括ケアシステム推進事業 地域包括ケアシステムの構築に向けた普及啓発や見守り活動団体等への支援を行い、区民ニーズと地域活動との効果的なマッチングを推進します。	●さまざまな機会や媒体を活用した普及啓発の検討・実施 ○地域包括ケアシステムの理解促進に向けた取組の推進 H29講演会：3回	・効果的な講演会、イベントの検討・開催 ・デジタルサイネージ、市政だより川崎区版連載企画などによる普及啓発の検討・実施				事業推進
	○「川崎区版地域包括ケアシステムパンフレット」を活用した地域活動の推進及び地域見守り活動団体等への支援 ・パンフレットの発行・活用	・パンフレットの活用	・推進状況を踏まえたパンフレットの改訂	・改訂後のパンフレットの活用		
	●地域情報・ニーズの把握・情報共有及び支え合いの地域づくりに向けた取組の推進 ○地域包括ケアシステムの推進に資する地域活動と区民ニーズのマッチングに向けた取組の推進 ・地域活動の把握・活用	・地域活動の情報発信及び区民ニーズとの効果的なマッチングの推進				
	○地区カルテ等を活用した地域課題の共有及び課題解決に向けた取組の推進 ・地区カルテの作成	・地区カルテの更新及びワークショップの開催等を通じた地域の実情に応じた支援の推進				
	●区役所内部の推進体制に基づく取組の推進 ○地域包括ケアシステム推進本部会議や地域マネジメントプロジェクト会議を中心とした推進体制に基づく取組の推進 ・推進体制の整備	・推進体制に基づく取組の推進				

事業名	現状		事業内容・目標			
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
川崎市こども情報発信事業 子育て中の保護者向けに、子育て情報誌の発行、ホームページ等による情報発信、区役所庁舎内の情報コーナー設置など、子育て支援や相談窓口の情報を発信します。	●子育て支援情報の発信 ○川崎市子育てガイド「さんぼみち」の活用及び「さんぼみち」の活用	・「さんぼみち」の改訂・活用、外国語版の活用 ・外国人市民が必要とする情報の多言語による一元的発信に向けた検討 継続実施	・「さんぼみち」の活用 ・外国人市民が必要とする情報の多言語による一元的発信 継続実施	・「さんぼみち」の改訂、活用 ・外国人市民が必要とする情報の多言語による一元的発信	・「さんぼみち」の活用	事業推進
川崎市子ども支援機関通訳・翻訳支援事業 日本語に不慣れな子どもや保護者が孤立することを防ぐため、子どもの支援を行う機関からの申請に基づいて通訳・翻訳を行います。	●日本語に不慣れな家庭に向けた、学校や保育園等からの申請に基づく通訳・翻訳の実施 H28通訳・翻訳件数：160件 ・通訳・翻訳ボランティアの育成	・学校や保育園等からの申請に基づく通訳・翻訳の実施 ・通訳・翻訳ボランティア育成に向けた研修の実施及び交流の推進				事業推進
保育所等を活用した子育て支援事業 保育所等を活用した講座や関係機関職員向けの研修などを実施し、子育て世帯への適切な支援を行います。	●保育所等を活用した多様な子育て支援の推進 ○地域の親子を対象とした食育や保健などの子育て支援講座の開催 H28開催回数：23回 ○保育所や地域子育て支援センターなどの関係機関職員向けの研修の実施 H28開催回数：3回 ・民間保育所等との協働連携体制の推進	開催回数：20回程度 継続実施	開催回数：20回程度 継続実施	開催回数：20回程度 継続実施	開催回数：20回程度 継続実施	事業推進
川崎市思春期問題対策事業 学校生活への適応が困難な児童等を支援する「こどもサポート旭町」を運営し、不登校や引きこもりの子どもに適した社会参加の促しや、保護者等への支援を行います。	●「こどもサポート旭町」の運営及び相談体制の充実 H29開所日数：週4日 ・指導員による学習支援等の実施 ・メンタルボランティアによる心理的ケアの実施	開所日数：週4日 ・指導員による学習支援等の実施 ・メンタルボランティアの増員による心理的ケアの充実・地域ボランティアの活用	開所日数：週4日 ・支援状況の検証及び検証を踏まえた学習支援の実施 ・取組状況の検証及び検証を踏まえたボランティアの効果的活用			事業推進
	●不登校や引きこもりの子ども及びその保護者等に向けた支援の推進 ○個別支援検討会議及び不登校児等の保護者の会の開催 H29個別支援検討会議：5回 H29保護者の会：4回 ・指導員による保護者に対する相談支援の実施	開催回数：5回以上 継続実施	開催回数：5回以上 継続実施	開催回数：5回以上 継続実施	開催回数：5回以上 継続実施	事業推進

総論
10年戦略
基本政策1
基本政策2
政策体系別計画
基本政策3
基本政策4
基本政策5
区計画
進行管理・評価



安全・安心なまちづくりに向けた地域防災力の向上

主な取組の方向性

自主防災組織等を中心とした地域防災力の強化に向け、外国人市民を含めた地域の自助・共助（互助）意識を高めるための継続的な支援を行い、地域一体で大規模災害に対応できる地域づくりをめざします。また、区災害本部体制の強化とともに、区民の防災意識向上のため、津波や風水害に対する正しい知識や避難方法、コンビナートの安全対策などについての啓発を推進します。

総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

基本政策3

基本政策4

基本政策5

区計画

進行管理・評価

政策体系別計画

事業名	現状		事業内容・目標				
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降	
地域防災力向上事業	<ul style="list-style-type: none"> ●自主防災組織を中心とした地域防災力の向上に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織活動の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・風水害も想定した自主防災組織活動への運営支援の推進 ・避難所開設・運営訓練の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・より実効性の高い訓練の実施に向けた支援 						
<p>津波に関する基本的知識や避難方法を普及啓発するとともに、避難所開設・運営訓練を実施するなど、自主防災組織を中心とする地域の共助（互助）による避難所体制の充実・強化を推進します。また、外国人市民の防災意識の向上をめざし、支援します。</p>	H29訓練数：9回	訓練数：9回以上	訓練数：9回以上	訓練数：9回以上	訓練数：9回以上	→ 事業推進	
	<ul style="list-style-type: none"> ●川崎区総合防災訓練の実施 <ul style="list-style-type: none"> ○区民や関係機関との連携による地域特性に応じた実践的な訓練の実施 						
	H29実施回数：2回 (川崎小・田島支援学校桜校)	実施回数：2回以上 ・九都県市合同防災訓練会場としての総合防災訓練の運営・実施	実施回数：2回以上 ※関連する事務事業：施策1-1-1「地域防災推進事業」	実施回数：2回以上	実施回数：2回以上	実施回数：2回以上	→
	<ul style="list-style-type: none"> ●川崎区の特徴を踏まえた各種訓練の実施 <ul style="list-style-type: none"> ○外国人市民を対象とした防災訓練・防災講座の実施 						
H29訓練・講座数：3回	訓練・講座数：3回以上 ・場所、手法等の検討に基づく効果的な実施	訓練・講座数：3回以上	訓練・講座数：3回以上	訓練・講座数：3回以上	訓練・講座数：3回以上	→	
<ul style="list-style-type: none"> ○津波避難訓練の実施 							
H29訓練数：1回	訓練数：1回以上 ・民間施設等との連携に向けた検討・調整	訓練数：1回以上	訓練数：1回以上	訓練数：1回以上	訓練数：1回以上	→	
<ul style="list-style-type: none"> ・コンビナート安全対策の周知 ・隣接区(横浜市鶴見区・幸区)との協定を踏まえた訓練の実施 							
	・出前講座などのコンビナート安全対策の周知					→	
	・帰宅困難者訓練等の合同実施及び協定を踏まえた災害時の連携体制の検討・強化					→	
川崎区危機管理対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ●川崎区危機管理地域協議会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ○「全体会議」の開催 						
H29開催回数：1回	開催回数：1回	開催回数：1回	開催回数：1回	開催回数：1回	開催回数：1回	→ 事業推進	
<ul style="list-style-type: none"> ○「臨海部・帰宅困難者対策部会」、「自主防災・特別支援部会」、「医療・救急部会」、「ライフライン部会」の開催 							
H29開催回数：6回	開催回数：6回以上	開催回数：6回以上	開催回数：6回以上	開催回数：6回以上	開催回数：6回以上	→	
<ul style="list-style-type: none"> ●区職員向けの訓練・研修の実施 							
<ul style="list-style-type: none"> ・訓練・研修実施 <ul style="list-style-type: none"> ・図上シミュレーション訓練などの一歩進んだ実践的な職員向け訓練・評価等の実施 ・専門的見地からの訓練評価等を踏まえた職員行動マニュアルの改訂 							
						→	
<p>区災害本部体制を充実、強化するため、区職員の防災意識、災害対応力の向上を図るとともに、区民、事業者、行政が連携し、災害に強いまちづくりを推進します。</p>							

交通安全と自転車対策の推進

主な取組の方向性
 自転車事故の防止に向けて、警察、各種交通安全団体などと連携し、交通安全キャンペーン活動を行うとともに、幅広い世代を対象に自転車教室などを開催し、交通ルールの遵守及びマナーの実践について、広く啓発活動に取り組みます。また、放置自転車の減少に向けて、小学生の絵画を使用した路面啓発シートの設置などの取組を推進します。

事業名	現状	事業内容・目標				
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
自転車マナーアップ事業 自転車利用者への交通ルールの遵守、マナー向上と、交通事故防止に向けて、各種キャンペーンや交通安全教室などを実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ●幅広い世代を対象とした自転車事故の防止に向けた取組の推進 ○スクエアドストリート方式の交通安全教室 H29開催回数：3回 H29参加者数：880人 ○小学生・高齢者・PTA・区職員等を対象とした交通安全教育 H29開催回数：88回 ○交通安全子ども自転車大会 H29開催回数：1回 H29参加者数：24人 ●交通安全関連団体と連携した啓発活動の実施 ・交通安全関連団体と連携した街頭啓発キャンペーンの実施 	開催回数：3回 参加者数：1,000人以上	開催回数：3回 参加者数：1,000人以上	開催回数：3回 参加者数：1,000人以上	開催回数：3回 参加者数：1,000人以上	事業推進
川崎区新入学児童「交通安全絵のコンクール」事業 新入学児童を対象とした「交通安全絵のコンクール」を通じて、地域、家庭、学校が一体で子どもを交通事故から守るという意識の向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ●「交通安全絵のコンクール」の実施を通じた交通安全意識の醸成 ・コンクールの実施による児童・保護者等の交通安全意識の高揚 ・入選作品を活用した啓発活動の実施 	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	事業推進
川崎区放置自転車対策事業 放置自転車の減少と駐輪場の利用促進のための啓発活動などを行います。	<ul style="list-style-type: none"> ●放置自転車の減少に向けた取組の推進 ○小学生の絵画を使用した路面啓発シートの設置・更新 ・3か所設置（H29まで） ○区民ボランティアによる自転車防止活動の実施 ・川崎駅東口での放置自転車防止活動の実施 ○「川崎駅東口周辺地区総合自転車対策実施計画」に基づく取組の推進 ・第2・3期実施計画に基づく撤去活動・啓発キャンペーン等の推進 	新規設置：1か所	新規設置：1か所	既設シートの計画的更新	継続実施	事業推進

総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

政策体系別計画

基本政策3

基本政策4

基本政策5

区計画

進行管理・評価



地域の課題解決に向けたその他の取組

取組の柱 区名	事業名	概要	現状	事業内容・目標				
			平成28~29 (2016~17) 年度	平成30 (2018) 年度	平成31 (2019) 年度	平成32 (2020) 年度	平成33 (2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
川崎区								
地域資源を活かしたまちづくりの推進								
	「音楽のまち・かわさき」推進事業	区民に気軽に音楽を楽しんでもらう機会を設けることで、区のイメージアップを図り、「音楽のまち・かわさき」を推進します。	●「かわさき区ピアノコンサート」（市役所第3庁舎ロビーでの定例コンサート、商業施設コンサートなど）の実施					事業推進
	広報・広聴事業	さまざまな媒体を活用しながら行政情報や地域情報の効果的発信に取り組むとともに、区民の意見を区政運営に反映させるために区民アンケートを実施します。	●多言語メールマガジンの配信などによる外国人市民に向けた効果的情報発信の推進 ●外国人市民が必要とする情報の多言語による一元的情報発信 ●区民アンケートの実施					事業推進
	まちづくり推進事業	区内のまちづくり推進組織等の活動を支援し、区の地域課題解決等に向けた取組を推進します。	●区内のまちづくり推進組織等に対する活動支援の実施 ●「参加と協働による地域課題の解決の新たなしくみ」の検討とあわせて、まちづくり推進組織等のあり方の検討					事業推進
	市民活動支援事業	市民活動に必要な資源である「市民活動コーナー」を区内3か所に設置し、市民活動団体の活動を支援します。	●川崎区市民活動コーナー（教育文化会館・大師支所・田島支所）の運営 ●市民活動活性化のための講座等の実施					事業推進
	ウェルカム川崎区事業	区の魅力や生活に役立つ情報を掲載した区のガイドマップを転入者に配布し、転入者の生活の利便性向上や地域への愛着の醸成を図る取組を推進します。	●川崎区ガイドマップの作成・配布					事業推進
区のイメージアップに向けた環境まちづくりの推進								
	川崎区エコプロジェクト事業	地域における緑化推進及び環境問題に関する区民意識向上のため、区民との協働による啓発活動を実施します。	●市民ボランティア等との協働による草花の植栽の実施 ●支所庁舎への「緑のカーテン」の設置					事業推進
誰もが安心して、生き生きと暮らせるまちづくりの推進								
	地域の保健福祉情報発信事業	保健、福祉、子育てに関する情報を、ホームページ等を活用して効果的に区民に発信します。	●川崎区地域保健福祉かわら版（ほかほか通信）ホームページへの情報掲載及びホームページの内容を掲載したポスター・チラシの発行					事業推進
	高齢者支援普及啓発事業	「地域包括支援センター」などの身近な相談機関の区民への浸透や認知症の早期診断・早期対応に向けた普及啓発を推進します。	●啓発グッズ等を活用した効果的な普及啓発の推進					事業推進
	田島地区世代間交流・子ども子育て支援事業	地域の住民と施設関係者により立ち上げられた「田島子ども・子育てプロジェクト」による世代間交流や子育て世代支援の実践的活動を通じて、地域コミュニティの活性化を図ります。	●田島地区における地域住民と関係機関の連携による世代間交流・子育て支援イベントのコーディネート ●地域住民・関係機関による自主運営への移行					

総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

政策体系別計画

基本政策3

基本政策4

基本政策5

区計画

進行管理・評価

取組の柱 区名	事業名	概要	事業内容・目標					平成34(2022)年度以降
			現状 平成28~29 (2016~17) 年度	平成30 (2018) 年度	平成31 (2019) 年度	平成32 (2020) 年度	平成33 (2021) 年度	
川崎市								
地域における子ども・子育て支援の推進								
	かわさき区子育てフェスタ事業	子育てしやすい地域づくりを目指して、「かわさき区子育てフェスタ」を開催し、多世代にわたる区民の交流や子育て情報の発信を推進します。	●「かわさき区子育てフェスタ」の開催					事業推進
	発達に課題のある未就学児への支援事業	発達障害やその疑いのある子どもの保護者が、子育てにおいて抱える悩みを解決していただけるように、学習・交流会を開催します。	●発達障害やその疑いのある子どもの保護者を対象とした学習・交流会「こどもの力を育てるために」の開催					事業推進
	男性の育児参加促進事業	父親向け子育て講座、イベント等を実施し、男女が共に担う育児の実現をめざします。	●男性の育児参加促進や世代間交流を図るための取組の推進 ●支援の担い手の拡充に向けた民間保育所等との連携					事業推進
	待機児童対策強化事業	保護者のニーズを十分に把握し、状況に応じた多様な保育施設の情報提供を行うことにより、待機児童解消に向けた取組を進めます。	●「川崎市周辺子育て施設マップ（日本語版・外国語版）」の作成 ●きめ細やかな保育所等入所相談の実施					事業推進
交通安全と自転車対策の推進								
	安全・安心まちづくり推進事業	地域住民、事業者、関係団体、行政が連携して防犯、防火、交通安全の対策に取り組み、安全で安心なまちづくりを推進します。	●地域住民、関係団体、行政が一体となった地域パトロールの実施 ●安全・安心のまちづくりに向けたキャンペーン等の啓発活動の実施					事業推進
区役所サービス向上事業								
	区民サービス向上事業	「区役所サービス向上指針」に基づき、区職員の人材育成、窓口環境の整備等を進め、より質の高い区役所サービスの提供に取り組みます。	●サービス向上委員会や職員研修の開催による区役所サービス向上の取組の推進 ●窓口対応におけるTV通訳システム・電話通訳システムの活用					事業推進
地域課題対応事業その他事業								
	いきいきかわさき区提案事業	地域課題の解決に向けて、市民活動団体等から事業提案を募集し、区と提案団体がお互いの特性を活かしながら、協働による取組を推進します。	●市民提案型協働事業の募集、選定、実施、事業評価					事業推進
区の新たな課題即応事業								
	区の新たな課題即応事業	新たに生じた課題に、適切かつ迅速に対応し、解決に向けた取組を推進します。	●新たに発生する課題に対応する事業の実施					事業推進



“それいいね”が広がるまちづくりに向けて

● 企業市民による中学校出前授業

- 川崎区では、区内の企業や地域団体などで構成する「川崎区企業市民交流事業推進委員会」による企業市民交流事業を実施し、企業の地域社会への貢献活動の気運を高めるとともに、企業・市民・行政の三者の連携による、生活市民と企業市民の交流の場づくりに取り組んでいます。
- 「中学校出前授業」は、企業市民交流事業の一環として、平成 26（2014）年度から実施しています。中学生が「仕事をする未来の自分」を主体的に考えられる貴重な機会となっており、また、授業を行う企業等にとっては、普段接することのない地域の子どもたちとの交流を通じた地域貢献の場となっています。
- 企業市民交流事業推進委員会では、「出前授業」のほか、「川崎臨海部の夢！ 発見バスツアー」や「かわさき区宝物ガイドマップ」の作成など区の魅力や資源を活かした取組を展開しています。

「中学校出前授業」はこんな内容です！

- 川崎区企業市民交流事業推進委員会に所属する企業や団体等が中学校に出向き、「働くということ」をテーマとして、約 1 時間の授業を対話形式で行っています。それぞれの企業等の特性を活かしながら、講師が自らの経験を通じて感じている仕事のやりがいや喜び、これまで克服してきた困難などを、同じ地域で働く人生の先輩として中学生に伝えます。



参加企業等が趣向を凝らした授業を展開



授業後は報告会を開き、生徒が授業で印象に残った言葉や感想を報告

今後の展開に向けて

- 平成 29（2017）年度は 15 を超す企業等が参加し、年間 2 校で実施しました。実施後は、講師を務めた方々同士の意見交換会を行うとともに、委員会で課題の検討を行い、学校や生徒のニーズを捉えたより良い内容となるよう、毎回工夫を重ねています。
- 職場体験や部活動での交流など、出前授業をきっかけとして、企業と学校との連携した取組に発展した事例もあり、今後、企業によるさらなる地域貢献の展開につながる可能性を有している事業です。

★ 市民の想い、メッセージ

- 中学生なりに仕事について考え、吸収しようとする姿に新鮮な感動を覚えます。講師にとっても「働く」ということをあらためて考えさせられる、いい機会となっています。（参加企業講師）
- 働くことは自分自身で考えること。そのためには何事にも興味を持ち、一生懸命やる必要があります。困難なことにも積極的に取り組み、将来につなげていきたいです。（生徒）
- 学校での学習や経験を通して、自己を高めようとするのが自分の将来をよりよくすることにつながるということを教えてもらう貴重な場となっています。（実施校）

● “ちょっと楽しい、何だか嬉しい” 地域の支え合いの取組

地域の縁側^{わらってら}「笑寺かわさき」で、笑いヨガの掛け声が笑顔の花を咲かせています

○ 地域の縁側とは？

誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場所として、現在区内に13か所あります。おしゃべり、お茶飲み、小物作り、体操、生活に役立つ講座など、縁側団体ごとにさまざまな活動が行われています。

○ 地域が輝く新しいアイデア！みんなの想いが重なって、お寺が楽しい集いの場になりました。

「地域のために何かしたい」そんな活動代表者の想いと「お寺を地域の人に活用してほしい」という住職の想いが結びつき、宮本町の「幸福寺」で月1回笑いヨガとお茶飲みを楽しむ集いの場が開かれるようになりました。

○ 楽しい時間を演出する「カフェボランティア」の存在が光っています。

笑寺かわさきでは、カフェボランティアさんが淹れてくれる温かいコーヒーが、笑いヨガの後の楽しいひとときを作りだしています。



思い切り笑って、体を動かします



笑いヨガのあとは、コーヒーを飲みながらおしゃべりを楽しめます。



「腹の底から声を出す機会なんて他にない」、「力が湧いてきて楽しい」と参加者の皆さんから大好評

大規模マンションなどで孤立しがちなママと乳幼児を応援する「赤ちゃん和妈妈のつどい」

○ 小田栄の大規模マンションでは、「育児不安を抱えた子育て世代を孤立させてはいけない」という地域の皆さんの想いから子育て世代が気兼ねなく集まれる「赤ちゃん和妈妈のつどい」が立ち上がりました。「地域包括支援センター ビオラ川崎」の集会室で月1回手遊びや育児の悩み相談などが行われています。

○ 地域で活動する男性のグループやマンション内のボランティアグループが地域包括支援センターでの活動が縁となって集まり、赤ちゃん和妈妈のつどいを支えています。



歌や遊戯、読み聞かせなどを行っています。



先輩ママに相談する場面も

★ 市民の想い、メッセージ

- 参加者の中には、ひとり暮らしで普段人とおしゃべりする機会が少ない方もいます。体を動かしたり、皆さんとおしゃべりしたりすることで表情が明るくなり、また、顔見知りも増えて日頃のお付き合いにつながっているようです。（「笑寺かわさき」スタッフ）
- 子育ての悩みを誰に相談すればいいのか分からなかったのですが、「赤ちゃん和妈妈のつどい」に参加してからは、同じ子育て中の人たちや先輩ママに相談したりしています。外で会った時も挨拶するなど気軽に相談できる関係になっています。（「赤ちゃん和妈妈のつどい」参加者）

区のマップとの対応表



福祉施設

名称	開所予定	定員	MAP 番号
福祉センター跡地 活用施設	特別養護老人ホーム (日進町)	100床 短期入所 15人	①
	障害者支援施設	47人 短期入所 20人	②
	宿泊型自立訓練	20人	③
小田さくら保育園	H30(2018)	135人	④
保育園川崎ベース	H30(2018)	60人	⑤
メリー★ポピンズ アトレ川崎ルーム	H30(2018)	60人	⑥

道路・公園

名称	事業概要	事業予定	MAP 番号
臨港道路東扇島水江町線の 整備	東扇島～水江町間を結ぶ臨港 交通施設の整備	H35(2023) 完成	⑦
羽田連絡道路の整備	殿町～羽田空港を結ぶ道路の 整備	H32(2020) 完成	⑧
国道 357 号[多摩川トンネル]	多摩川トンネル区間の整備	事業促進	⑨
京浜急行大師線連続立体 交差事業	1期①区間 (小島新田駅～ 東門前駅)	H31(2019) 完成	⑩
	1期②区間 (東門前駅～川 崎大師駅 鈴木町駅すりつけ)	H31(2019) 工事着手	⑪
富士見公園整備事業	広場の拡張整備	事業促進	⑫
産業道路駅前交通広場の 整備	新たな駅前交通広場の整備	H32(2020) 完成	⑬

その他

名称	事業概要	事業予定	MAP 番号
川崎市役所本庁舎等の 建替え	災害対策活動の中核拠点としての 耐震性能を確保するための建替え	H34(2022) 庁舎完成	⑭
東扇島堀込部の土地 造成	川崎港臨港地区東扇島堀込部の 公有水面を埋め立て、土地を造成	H39(2027) 完成	⑮
不燃化重点対策地区の 取組 (小田周辺地区)	老朽木造住宅等が密集している 小田周辺地区における災害に強い 住環境形成の推進	事業推進	⑯
京急川崎駅周辺地区の 整備	京急川崎駅西口街区の事業化に 向けた取組の推進	事業推進	⑰
川崎駅周辺地区の整備	東口地区の事業化に向けた取組の 推進	事業推進	⑱
川崎駅周辺における 公共空間の有効活用	有効活用による賑わいの創出等の 推進	H30(2018)社会実験 H32(2020)本格実施	⑲
臨港消防署千鳥町出張 所棧橋の整備	棧橋の改築工事	H30(2018) 完成	⑳
大師河原貯留管の整備	合流式下水道の改善及び大師 河原地区の浸水対策工事	H30(2018) 完成	㉑
キングスカイフロントの 拠点形成	ライフサイエンス・環境分野の研究 開発拠点の形成	事業推進	㉒
川崎病院の医療機能 再編整備	医療需要を見据えた川崎病院の 医療機能再編整備の検討・推進	H33(2021) 工事着手	㉓
新川通り通行環境整備	歩行空間の確保及び自転車通行 環境の整備	H32(2020) 完成	㉔
小川町地区代替駐輪場 の整備	新川通り通行環境整備に伴う代替 駐輪場の整備	H31(2019) 完成	㉕
南渡田地区 (浜川崎駅 周辺地域) における 新たな拠点形成	臨海部の機能転換を牽引する 新産業創出拠点の形成に向けた 取組の推進	事業推進	㉖
塩浜 3 丁目周辺地区の 整備	臨海部の活性化に向けた、憩い 交流などの新たな機能導入や基盤 整備	事業推進	㉗

地域の課題解決に向けた取組の一覧	事業名（○は本計画で「計画期間の主な取組」として掲載している事業）
地域資源を活かしたまちづくりの推進	
	○ 地域資源を活かしたまちづくり推進事業
	○ かわさき産業ミュージアム推進事業
	○ 川崎区企業市民交流事業
	○ 地域・生涯スポーツ振興事業
	「音楽のまち・かわさき」推進事業
	広報・広聴事業
	まちづくり推進事業
	市民活動支援事業
	ウェルカム川崎区事業
区のイメージアップに向けた環境まちづくりの推進	
	○ 区の花・区の木推進事業
	○ 川崎区ミツバチプロジェクト支援事業
	○ グリーンアップたじま事業
	○ 川崎駅周辺落書き対策事業
	○ 臨海部環境改善事業
	川崎区エコプロジェクト事業
誰もが安心して、生き生きと暮らせるまちづくりの推進	
	○ 地域包括ケアシステム推進事業
	○ 地域の縁側活動推進事業
	○ 健康づくり・介護予防支援事業
	○ 川崎区子ども地域交流・居場所づくり促進事業
	地域の保健福祉情報発信事業
	高齢者支援普及啓発事業
	田島地区世代間交流・子ども子育て支援事業
地域における子ども・子育て支援の推進	
	○ こども総合支援ネットワーク環境整備事業
	○ 川崎区こども情報発信事業
	○ 川崎区子ども支援機関通訳・翻訳支援事業
	○ 保育所等を活用した子育て支援事業
	○ 川崎区思春期問題対策事業
	かわさき区子育てフェスタ事業
	発達に課題のある未就学児への支援事業
	男性の育児参加促進事業
	待機児童対策強化事業
安全・安心なまちづくりに向けた地域防災力の向上	
	○ 地域防災力向上事業
	○ 川崎区危機管理対策事業
交通安全と自転車対策の推進	
	○ 自転車マナーアップ事業
	○ 川崎区新入学児童「交通安全絵のコンクール」事業
	○ 川崎区放置自転車対策事業
	安全・安心まちづくり推進事業
区役所サービス向上事業	
	区民サービス向上事業
地域課題対応その他事業	
	いきいきかわさき区提案事業
区の新たな課題即応事業	
	区の新たな課題即応事業

幸 区



■人口 166,182 人 ■世帯数 78,628 世帯
■面積 10.09 km² (平成 30 (2018) 年 1 月 1 日現在)

幸区の木



「ハナミスキ」

幸区の花



「ヤマズキ」

総論

10年戦略

基本政策 1

基本政策 2

政策体系別計画

基本政策 3

基本政策 4

基本政策 5

区計画

進行管理・評価



幸区の概要

- 幸区は、市の南東部に位置し、市内で最も面積が小さく人口密度が 2 番目に高い区です。区域は、北から東に流れる多摩川を挟んで東京都大田区と、西から南に流れる矢上川と鶴見川を挟んで横浜市鶴見区、港北区と隣接しています。区の中央には J R 南武線と横須賀線が南北に通っており、J R 川崎、尻手、鹿島田、新川崎の 4 駅が立地するほか、国道 1 号と国道 409 号が交差するなど、交通利便性の高さが大きな特徴です。
- 区の名前は、明治 17 (1884) 年に明治天皇が観梅のため行幸したことに由来する「御幸村」の村名を継承し、「幸多い」地域になって欲しいという地域の人々の願いを込めて、昭和 47 (1972) 年の区制実施時に「幸区」と名付けられました。区役所庁舎は、昭和 50 (1975) 年に現在地に建てられ、40 年後の平成 27 (2015) 年には新たな庁舎に生まれ変わり、「地域コミュニティの拠点」、「地域防災の拠点」等として重要な役割を担っています。
- 幸区の区域は、かつて水田を中心とした農村地帯でしたが、明治期には工場の進出が始まり、戦後の高度経済成長期には公営住宅や社宅が多数建設され、人口が急増しました。昭和 40 年代以降、工場の移転が進み、跡地には大型共同住宅や大規模商業施設などが建設されました。
- 川崎駅西口周辺にはミュージア川崎シンフォニーホールや東芝未来科学館、ラゾーナ川崎プラザ、高層集合住宅等が立地するほか、北口通路西側デッキ等の整備など、市の新たな顔としてのまちづくりがさらに進んでいます。
- 新川崎・鹿島田駅周辺などでは、大規模マンション等の建設が引き続き進められており、今後も人口の増加が見込まれています。
- 都市化が進む中で、区の西部には、「加瀬山」の名前で親しまれ、地域の歴史にもふれられる自然の中に夢見ヶ崎公園が立地し、地域住民の憩いの場となっています。

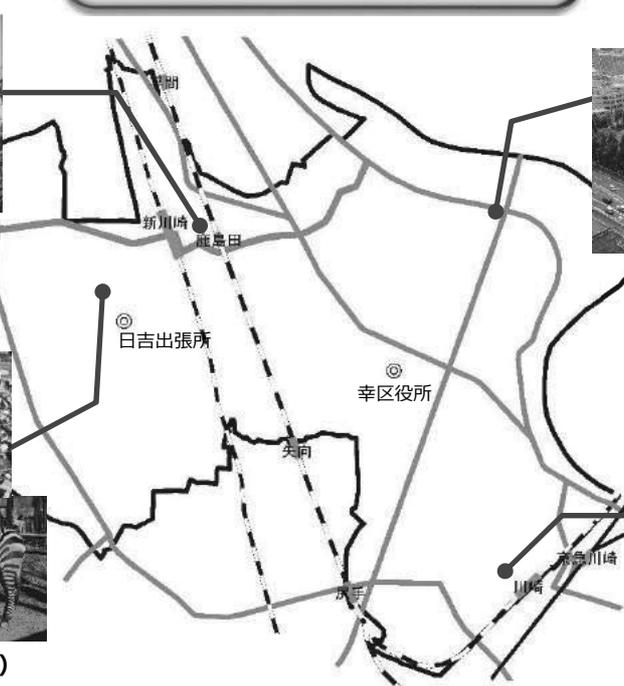
幸区的主要地域資源・魅力など



新川崎・鹿島田駅周辺



加瀬山 (夢見ヶ崎公園)



御幸公園の梅



川崎駅西口周辺



まちづくりの方向性

「しあわせあふれるまち さいわい」

- 幸区は、緑の中で動植物とのふれあいや歴史を感じることができる加瀬山や、うるおいある水辺の多摩川などの「自然空間」と、ミュージアム川崎シンフォニーホールをはじめとした文化・芸術施設や商業・産業などが集積し活気のある「都市空間」が調和したまちです。
- 新たな区民も、これまで暮らしてきた区民も、誰もが地域のつながりや支え合いとともに、魅力あふれる多彩な地域の資源を大切にしながら、地域への愛着や誇りをさらに高め、安らぎと幸せを実感することができるまちづくりを進めます。



第 1 期の主な取組状況

● 地域資源を活かしたまちづくりの推進

区内の自然や、文化・芸術・歴史などの地域資源を活かしながら、区民の地域への愛着と誇りを育んでいくため、かつて梅の名所であった御幸公園周辺で、区民との協働による梅林の復活や植樹などの取組を進めていくとともに、研究開発施設等が集積している特色を活かした科学体験イベントを実施するなど、さまざまな主体と協働・連携し、賑わいと彩り豊かな、魅力あるまちづくりを進めています。

● 健康で安心して暮らし続けられるまちづくりの推進

地域包括ケアシステムの構築に向け、「幸区ご近所支え愛モデル事業」を通じて、地域住民が主体となって声かけや見守り活動等を実施し、身近な地域課題の解決を図っています。また、地域住民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域の見守り人材の育成を目的とした講座の開催や、健康づくり活動への支援を行うなど、住民主体の自助・互助の取組を強化し、地域コミュニティの活性化を進めています。

● 安心して子育てできるまちづくりの推進

子育て家庭のニーズが多様化していることから、個々の家庭の状況に応じたきめ細かな相談・支援に取り組むとともに、地域全体で子育て家庭を支えるしくみづくりを進めています。また、外国につながる子どもへの学習支援など、特別な配慮を必要とする子どもやその家庭を支援しています。

● 地域コミュニティ活性化の推進

大規模マンションが建つ地域における自治会組織の設立を支援するとともに、コミュニティの活性化に向けて、町内会・自治会への加入促進や担い手の育成、既存町内会等との連携を推進しています。また、コミュニティスペースを備えた区役所庁舎の有効活用を図りながら、市民活動の活性化に向けた取組を推進しています。

● 安全で安心して暮らせるまちづくりの推進

大規模な地震等が発生した際に、各避難所が混乱なく避難所の開設及び運営を行うため、自主防災組織等と連携した避難所開設・運営訓練を区内全避難所（23 か所）で実施するとともに、防災意識向上に向けた啓発活動や新川崎・鹿島田駅及び川崎駅西口周辺などにおける帰宅困難者対策、区内に立地する企業や隣接区との防災に関する連携を強化しています。また、自転車事故防止に向けた交通安全キャンペーンなどの啓発活動や自転車通行環境の整備など、ソフト・ハード面の取組を推進しています。



現状と課題

●自然や文化などが調和し、魅力ある地域資源がたくさんあります。

- 貴重な自然が残る加瀬山には、市内唯一の動物園のある「夢見ヶ崎公園」があります。また、「御幸公園」や多摩川など、区民に親しまれる憩いと安らぎの空間があります。
- 世界的な音楽ホール「ミュージア川崎シンフォニーホール」や、多くの来場者で賑わう「ラゾーナ川崎プラザ」、最先端分野の研究開発拠点「新川崎・創造のもり」など、魅力あふれる地域資源があり、こうした資源を活かしながら、区民の地域への愛着と誇りをさらに高めていくことが求められています。

夢見ヶ崎動物公園



川崎駅西口周辺

●高齢化率が 21%を超えており、50%を超える地区もあります。

- 区全体の高齢化率は21.6%（平成29（2017）年9月末現在）と、全市平均の19.6%を上回り、超高齢社会の水準である高齢化率21%を超えています。また、町丁ごとに見ると、50%を超える地区もあります。
- ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯も増加を続けており、要介護高齢者や認知症高齢者も増えています。こうした何らかの支援を必要とする高齢者等が増加する中、幸区の特徴を活かした地域包括ケアシステムの構築に向け、身近な地域で多様な主体が連携した、自助・互助の取組が求められています。

65歳以上人口比率（上位5町丁）

	町丁名	割合	地区
1	河原町	54.1%	御幸
2	東古市場	29.9%	御幸
3	小倉	29.1%	日吉
4	古市場2丁目	29.1%	御幸
5	古市場1丁目	28.5%	御幸
	（幸区平均）	21.6%	
	（全市平均）	19.6%	

資料：市町丁別年齢別人口

平成29（2017）年9月末現在

●子育て家庭が増加しニーズも多様化しています。

- 大規模マンションへの子育て世帯の転入等に伴い、区内の子どもの人口が増加しています。共働き家庭の保育ニーズの高まりや、核家族化による子育てへの不安、孤立感への対応など、多様化する子育て家庭のニーズに対し、子育て情報の発信や、地域でのつながりを高めていく取組などが求められています。
- 児童虐待の未然防止や、外国につながる子どもの学校・地域からの孤立への対応など、特別な配慮を必要とする子ども・家庭に対し、支援団体等の連携による地域全体での支え合いが求められています。

15歳未満人口比率（上位5町丁）

	町丁名	割合	地区
1	新川崎	30.7%	日吉
2	新小倉	23.5%	日吉
3	神明町1丁目	20.3%	御幸
4	遠藤町	19.9%	御幸
5	戸手本町2丁目	19.3%	御幸
	（幸区平均）	13.4%	
	（全市平均）	13.0%	

資料：市町丁別年齢別人口

平成29（2017）年9月末現在

●大規模マンションの建設などにより、新たな区民が増えています。

- 新川崎・鹿島田駅周辺など、大規模マンションが建つ地域では、新たに転入した区民と以前から暮らしている区民との交流や、地域でともに支え合う意識の醸成などが求められています。
- 区内の町内会・自治会への加入率は68.5%（平成29（2017）年4月1日現在）と全区の中で最も高い水準にあるものの、近年、低下の傾向にあり、役員の高齢化や後継者不足などの課題も抱えています。
- 身近な課題を地域で解決するためには、住民相互の連携による自主的で活力に満ちた地域コミュニティの実現が必要であり、町内会・自治会や市民活動団体の取組への支援などが求められています。



新川崎・鹿島田駅周辺のマンション



●地域防災力の強化など、安全・安心への区民の意識が高まっています。

- 平成 28（2016）年度区民アンケート調査において、10年後のめざすべきまちとして、「地震や大雨などの災害に強いまち」や「防犯・交通安全など安全・安心な暮らしのできるまち」が上位に挙げられています。また、平成 28（2016）年の熊本地震や、各地で発生した洪水等の災害により、区民の地域防災力強化への意識が一層高まっています。
- 自主防災組織を中心に、地域住民が主体となった実践的な訓練を継続して実施するとともに、地域住民や企業、関係団体・機関、行政等の多様な主体間の連携強化を図るほか、隣接区との広域的な連携をさらに推進するなどにより、いつ、どこで発生するかわからない災害に、日頃から備える必要があります。



避難所開設訓練



計画推進の主な視点

- ひとり暮らし高齢者など、今後支援が必要となる高齢者等が増えていくことから、身近な地域で多様な主体が連携した、自助・互助の取組の推進が求められています。
- 大規模地震の発生が懸念されている中、地域住民や企業、関係団体・機関、行政が互いに連携するとともに、実践的な訓練方法を記した「幸区避難所開設・運営訓練マニュアル」を活用した訓練等を継続的に実施しながら、災害に備えていく必要があります。



計画期間の主な取組

地域資源を活かしたまちづくりの推進

主な取組の方向性

区内の自然や、文化・芸術・歴史などの地域資源を活かしながら、区民の地域への愛着と誇りを育てていくため、区民や市民活動団体、企業などのさまざまな主体と協働・連携し、賑わいと彩り豊かな、魅力あるまちづくりを進めます。

事業名	現状		事業内容・目標			
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
御幸公園梅香事業 公園内の散策路等の整備や、区民との協働による取組を「御幸公園梅香（うめかめ）事業推進計画」に基づき実施し、市制100周年に向けて、区の魅力向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ● 梅林の復活や植樹の取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○ 樹勢回復、植樹等の実施 H29梅植樹数：30本 ○ ふるさと寄附金制度を活用した梅植樹の推進 ・寄附金募集の開始 (H29) ● 地域住民や学校等と連携した取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・梅苗木の植樹等の実施 ・学校への植樹の促進 ・連携による魅力発信 ・学校における梅の学習 ・記念イベントの検討 ● 御幸の歴史・文化の伝承に向けた取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史文化に関する講演会の実施 H29実施回数：1回 ○ 梅の花や祭りの風景など梅に因んだ写真展の開催 H29開催数：1回 ● 公園の利用促進に向けた環境整備の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・散策路の設計等の実施 (H29) 	梅植樹数：30本	梅植樹数：10本	梅植樹数：10本	梅植樹数：10本	事業推進
音楽のまち推進事業 ミュー切川崎シンフォニーホールなど、区民が身近な場所で音楽に親しめる環境をつくり、「音楽のまち・かわさき」を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ● 区民が身近な場所で気軽に音楽を楽しめる取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○ 気軽に良質な音楽を区役所等で定期的に楽しめる「夢こんさあと」の実施 H29実施回数：7回 ○ アマチュアを中心とした演奏者による「さいわい街かどコンサート」の実施 H28実施回数：3回 ○ ミュー切川崎シンフォニーホール等を会場とした「さいわいけみズキコンサート」の実施 H28来場者数：1,300人 	実施回数：8回	実施回数：8回	実施回数：8回	実施回数：8回	事業推進
さいわいものづくり体験事業 新川崎・創造のもりなど、研究開発施設等が集積した幸区の特徴を活かした科学体験イベントを実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ● 科学体験イベントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ○ 実験やものづくりなどを通じて科学に親しむ「さいわいテクノ塾」の実施 H29参加者数：31人 ○ 新川崎・創造のもり地区を会場とした「科学とあそぶ幸せな一日」の実施 H29来場者数：1,200人 ○ 区内の企業との連携による「さいわいトライサイエンス実験教室」等の実施 H28参加者数：22人 	実施回数：1回	実施回数：1回	実施回数：1回	実施回数：1回	事業推進

総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

基本政策3

基本政策4

基本政策5

政策体系別計画

区計画

進行管理・評価



事業名	現状	事業内容・目標				
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
花と緑のさいわい事業 区内の緑化推進と区民の緑化意識の高揚を図るとともに、区民同士の交流を促進するため、花と緑の潤いあるまちづくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ●区内の緑化推進 ○地域の緑化活動団体と連携した「区役所前花いっぱい事業」の実施 H29実施回数：2回 ○花苗の配布等を通じた緑化活動団体への支援の実施 H29配布団体数：81団体 ●公共花壇等の花植活動の推進 ○緑化活動団体と連携した花植活動及び維持管理の実施 ・花壇等の維持管理の実施（月1回） 	実施回数：2回	実施回数：2回	実施回数：2回	実施回数：2回	事業推進
地域の魅力発信事業 貴重な地域資源である夢見ヶ崎公園の魅力を高め、地域のコミュニティ拠点として、区民の憩う空間づくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ●夢見ヶ崎公園を活用した魅力発信の推進 ○地域活動団体等と連携した賑わい創出に向けた取組の実施 ・団体同士の情報交換(H29) ○日吉合同庁舎を活用した夢見ヶ崎公園の魅力発信 ・方策の検討(H29) ○夢見ヶ崎動物公園の動物を題材にしたスマートフォンアプリを活用した魅力発信 ・アプリの更新(H28) 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組の検討・実施 ・公園一帯の魅力を紹介する展示等の実施 ・企業との連携による動物図鑑アプリの提供 				事業推進

健康で安心して暮らし続けられるまちづくりの推進

主な取組の方向性

地域住民が住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けることができるよう、住民主体の自助・互助の取組支援を強化するとともに、さまざまな啓発活動等を行い、健康・安心なまちづくりを進めます。

事業名	現状	事業内容・目標				
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
幸区ご近所支え愛事業 地域包括ケアシステムの構築に向け、地域住民が主体となった声かけや見守り活動等を通じて、身近な地域課題の解決につなげるなど、地域の自助・互助の取組を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ●ご近所支え愛事業推進会議等の開催 ○実施状況の報告及び情報共有のための推進会議の開催 H29開催回数：4回 ○地域包括ケアシステムの周知啓発のための講演会の開催 H29開催回数：2回 ●ご近所支え愛事業を中心とした多様な支え合い活動の実施 ・区内全域での事業展開に向けた段階的な実施（H29モデル事業実施箇所数：16か所） ●事業を地域で実施する人材の育成に向けた取組の推進 ・人材育成講座の実施（H29実施回数：2回） 	開催回数：3回	開催回数：3回	開催回数：3回	開催回数：3回	事業推進
健康長寿推進事業 健康づくりに関する交流会や普及啓発の取組等を地域において実施することで、区民がより健康に留意し、地域のつながりの中で健康づくりに取り組みながら、生き生きと暮らせるよう支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ●地域特性に合わせた健康づくりの実施 ○既に実施した地域における活動の活性化に向けた取組の推進 H28：御幸東1地区、南河原地区 ○御幸、南河原、日吉の各地区における活動の継続に向けたフォローの実施 ・御幸地区、南河原地区、日吉地区での実施 ●広く区民に周知するためのリーフレットの作成 ○リーフレットを活用した健康づくりグループの活動紹介等の実施 ・リーフレットの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特徴に応じた健康づくり活動の内容検討 ・健康づくり活動の実施 ・各地区ごとの習熟度に合わせた支援の実施 ・継続実施 				事業推進

事業名	事業内容・目標											
	平成28～29 (2016～17) 年度	平成30 (2018) 年度	平成31 (2019) 年度	平成32 (2020) 年度	平成33 (2021) 年度	平成34 (2022) 年度以降						
保健福祉情報発信事業 区における地域包括ケアシステムや保健福祉に関する情報を効果的に区民に届け、区民の関心と理解を深めます。	●保健福祉に関する効果的な情報発信 ○地域包括ケアシステムや保健福祉に関する情報の発信 ・保健福祉センターたよりの発行 (年3回) <table border="1"> <tr> <td>発行回数：3回</td> <td>発行回数：3回</td> <td>発行回数：3回</td> <td>発行回数：3回</td> <td>発行回数：3回</td> <td>→ 事業推進</td> </tr> </table>						発行回数：3回	発行回数：3回	発行回数：3回	発行回数：3回	発行回数：3回	→ 事業推進
発行回数：3回	発行回数：3回	発行回数：3回	発行回数：3回	発行回数：3回	→ 事業推進							
さいわい食品衛生啓発事業 食中毒予防のポイントを分かりやすく説明した冊子の配布や、区内の小中学生を対象とした食品衛生に関するポスターの募集・展示などを通じて、区民への食品衛生の啓発を進めます。	●食中毒予防などの食品衛生の啓発促進 ○食品衛生啓発用冊子「我が家の食品衛生」の発行 H29発行部数：1,200部 発行部数：800部 発行部数：1,200部 発行部数：1,000部 発行部数：1,000部 → 事業推進 ○区内の小中学生を対象とした食品衛生に関するポスターの募集・展示の実施 H29実施回数：1回 実施回数：1回 実施回数：1回 実施回数：1回 実施回数：1回 →											
さいわい動物愛護推進事業 動物愛護教室等を通して、動物の愛護と適正な飼養管理について区民の理解と関心を深めるとともに、動物愛護思想の普及啓発を行うことにより、人と動物の共生を図ります。	●動物愛護思想の普及 ○小学生を対象とした夏休み動物愛護教室の開催 H29開催回数：1回 開催回数：1回 開催回数：1回 開催回数：1回 開催回数：1回 → 事業推進 ○動物愛護小冊子「ワンコからのてがみ」の配布を通じた区内小学1年生への啓発活動の実施 H29発行部数：1,500部 発行部数：1,500部 発行部数：1,600部 発行部数：1,600部 発行部数：1,600部 → ●ラミネートパネルの作成・配布による適正飼養に向けた啓発活動の推進 H28配布数：70枚 継続実施 →											

安心して子育てできるまちづくりの推進

主な取組の方向性
 子育て家庭のニーズが多様化している現状を踏まえ、個々の家庭の状況に応じたきめ細かな相談・支援に取り組むとともに、地域全体で子育て家庭を支えるしくみづくりを進めます。

事業名	事業内容・目標					
	平成28～29 (2016～17) 年度	平成30 (2018) 年度	平成31 (2019) 年度	平成32 (2020) 年度	平成33 (2021) 年度	平成34 (2022) 年度以降
総合的な子ども支援ネットワーク事業 区内の子ども・子育て支援関係団体・機関同士の情報共有と連携強化を図るとともに、情報発信や講演会、「みんなで子育てフェアさいわい」などの事業を通じて、地域で子育てを支援する環境づくりを進めます。	●子ども・子育て支援関係団体同士の情報共有・連携強化 ○「幸区子ども総合支援ネットワーク会議」の開催 H29開催回数：2回 開催回数：2回 開催回数：2回 開催回数：2回 開催回数：2回 → 事業推進 ●「幸区子ども総合支援ネットワーク会議」による取組の実施 ○小中学生向け情報誌の発行 H29発行回数：3回 発行回数：3回 発行回数：3回 発行回数：3回 発行回数：3回 → ○子ども・子育て講演会の実施 H29開催回数：2回 開催回数：2回 開催回数：2回 開催回数：2回 開催回数：2回 → ○みんなで子育てフェアさいわいの実施 H29開催回数：1回 開催回数：1回 開催回数：1回 開催回数：1回 開催回数：1回 → ○子どもの地域包括ケアシステム構築に向けた検討会議等の開催 ・検討会議の開催 (H28開催回数：2回) 開催回数：2回 開催回数：2回 開催回数：2回 開催回数：2回 →					

総論
 10年戦略
 基本政策1
 基本政策2
 基本政策3
 基本政策4
 基本政策5
 区計画
 進行管理・評価



総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

基本政策3

基本政策4

基本政策5

政策体系別計画

区計画

進行管理・評価

事業名	現状		事業内容・目標			
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
こども・子育て支援事業 子育て情報誌等の発行や子育て支援講座、保護者の交流機会の提供等を通じて、子育て家庭等への支援を進めます。	●子ども・子育て情報の収集及び発信 ○区内の子育て支援団体や区民等で構成する編集会議との連携による「おこさまっぴさいわい」の発行 H28発行数：6,000部 発行数：6,000部程度 ・改訂に向けた検討	発行数：6,000部程度 ・改訂版の発行	発行数：6,000部程度 ・改訂版の発行	発行数：6,000部程度	発行数：6,000部程度	事業推進
	●乳幼児から学齢期の子どもと家庭、子育て支援者などを対象とした取組の実施 ○保護者・子どもとの外遊びでの交流を通じた地域による子育て支援の推進 H29実施公園数：4か所 実施公園数：4か所 実施公園数：4か所 実施公園数：4か所	実施公園数：4か所	実施公園数：4か所	実施公園数：4か所	実施公園数：4か所	事業推進
	○地域の子育て支援人材の育成のための講座等の実施 H29講座実施回数：5回 実施回数：5回	実施回数：5回	実施回数：5回	実施回数：5回	実施回数：5回	事業推進
保育所等活用事業 民間保育所を含む区内の保育所等を活用して、地域への子育て支援や、子育て支援者の育成等を進めます。	●区内保育所等における地域子ども・子育て支援事業の実施 ○子育てへの不安の解消や、父親の育児参加促進を目的とした講座の実施 H28子育て講座実施回数：72回 継続実施	継続実施				事業推進
	○イベント開催予定等を掲載した子育て情報誌の発行・配布 ・子育て情報誌の発行・配布 継続実施	継続実施				事業推進
	○子育てサロン等への職員派遣を通じた子育て支援者の育成 H28子育て支援ボランティア育成人数：50人 継続実施	継続実施				事業推進
児童虐待防止・こども相談支援事業 関係機関との会議や研修会、講座の開催を通じて、要保護児童の早期把握に努めるとともに、孤立感や不安感なく安心して子育てができる地域づくりを進めます。	●要保護児童対策地域協議会幸区実務者会議等の実施 ○実務者会議での事例検討・講演会等の実施 H29会議開催回数：5回 開催回数：5回	開催回数：5回	開催回数：5回	開催回数：5回	開催回数：5回	事業推進
	○区民向け講演会等の実施 H29講演会開催回数：1回 開催回数：1回	開催回数：1回	開催回数：1回	開催回数：1回	開催回数：1回	事業推進
	●子ども・子育てに関する相談と支援の実施 ○こども相談窓口等における相談・支援の実施 ・リーフレットの作成及びリーフレットを活用した相談・支援 継続実施	継続実施				事業推進
	●専門的な講師等による「こどもの発達支援保護者学習会」の実施 H29実施回数：5回 実施回数：5回	実施回数：5回	実施回数：5回	実施回数：5回	実施回数：5回	事業推進
幸区子ども学習サポート事業 NPOとボランティアである区民サポーターが連携して、外国につながる小中学生への学習支援活動と、サポーターの養成を行うことで、区民の主体的な活動を進めます。	●小中学生への学習支援の実施 ○小学校施設を活用した学習支援の実施 H28実施回数：40回 実施回数：40回程度	実施回数：40回程度	実施回数：40回程度	実施回数：40回程度	実施回数：40回程度	事業推進
	●学習支援サポーターの養成及び活動支援 ○学習支援サポーター養成講座の実施 H29講座開催回数：5回連続講座を1回 開催回数：連続講座を1回	開催回数：連続講座を1回	開催回数：連続講座を1回	開催回数：連続講座を1回	開催回数：連続講座を1回	事業推進
	○学習支援サポーターへの相談・指導の実施 ・相談指導の実施 継続実施	継続実施				事業推進

地域コミュニティ活性化の推進

主な取組の方向性

大規模マンションが建つ地域における自治会組織の設立支援や既存町内会等との連携の推進、町内会・自治会への加入促進等を図るほか、多様な区民が参加・交流する場づくりへの支援など、地域コミュニティの活性化に向けて取組を推進します。

事業名	現状		事業内容・目標			
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
地域コミュニティ推進事業 地域の課題調査や町内会・自治会の活動支援などを通じて、区内のコミュニティ活動を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●町内会・自治会活動の活性化に向けた取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○人材育成講座等の実施 H29実施回数：4回 実施回数：4回 実施回数：4回 実施回数：4回 実施回数：4回 → 事業推進 ○町内会・自治会加入促進リーフレットの作成・配布 ・リーフレットの作成・配布 継続実施 → ●町内会・自治会の負担軽減に向けた取組の実施 <ul style="list-style-type: none"> ○行政からの回覧依頼物等の一括配送の実施 ・一括配送の実施 継続実施 → ●大規模マンションの建設等に伴う町内会・自治会組織設立のための支援等の検討・推進 <ul style="list-style-type: none"> ○町内会・自治会加入促進リーフレット等を活用した組織設立に向けた支援の推進 ・入居者への説明会、支援等の検討・実施 → ヒアリング等を通じた支援等の実施 					
市民活動等支援事業 市民活動コーナーの運営や市民活動団体同士の交流を促進し、区内の市民活動と区民の主体的な取組を促進します。	<ul style="list-style-type: none"> ●市民活動団体の支援につながる中間支援的機能の検討・実施 <ul style="list-style-type: none"> ○「幸区市民活動コーナー利用者の会」と連携した市民活動コーナーの運営 ・市民活動コーナー等の運営 継続実施 → 事業推進 ○「幸区市民活動コーナー利用者の会」と連携したイベントの開催を通じた市民活動団体の交流促進 H29交流イベント開催：1回 継続実施 → 					
幸区多文化共生推進事業 多文化フェスタ、コンサートや講座等の開催を通じて、多文化共生に対する区民の理解と関心を深めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●多文化共生の理解や関心を深めるための事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ○多文化フェスタさいわいの実施 H28参加者数：900人 参加者数：1,000人規模 参加者数：1,000人規模 参加者数：1,000人規模 参加者数：1,000人規模 → 事業推進 ○多文化コンサートの実施 H28参加者数：600人 参加者数：600人規模 参加者数：600人規模 参加者数：600人規模 参加者数：600人規模 → ○国際理解基礎講座（多文化トレイン）の実施 H28実施回数：5回 実施回数：5回 実施回数：5回 実施回数：5回 実施回数：5回 → 					
スポーツ推進事業 地域のスポーツ施設等の資源を活用し、区民の健康及び体力の保持増進を図るとともに、さまざまな世代の住民同士が障害の有無にかかわらず、スポーツを通して交流が図られるよう、取組を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●地域団体及びかわさきスポーツパートナー等と連携したスポーツの推進 <ul style="list-style-type: none"> ○川崎フロンターレ等と連携したスポーツ大会の実施 H28実施回数：3回 実施回数：3回 実施回数：3回 実施回数：3回 実施回数：3回 → 事業推進 ●多様な主体の参加によるバラスポーツの振興 <ul style="list-style-type: none"> ○イベント等の開催を通じたバラスポーツの振興 実施回数：1回 実施回数：1回 実施回数：1回 実施回数：1回 実施回数：1回 → ●スポーツ推進を目的とした講演会等の開催 <ul style="list-style-type: none"> ○区民及び区内のスポーツ指導者等を対象とした講演会等の開催 H29講演会開催回数：1回 開催回数：1回 開催回数：1回 開催回数：1回 開催回数：1回 → ●各団体が主催するスポーツ大会における区の協賛等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ大会における区長賞の授与等の実施 H29表彰数：9大会 表彰数：9大会程度 表彰数：9大会程度 表彰数：9大会程度 表彰数：9大会程度 → 					

総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

政策体系別計画

基本政策3

基本政策4

基本政策5

区計画
進行管理・評価



事業名	現状	事業内容・目標				
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
コミュニティカフェ推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティカフェを通じた区民同士の交流促進 ○幸市民館等において気軽に参加できるコミュニティカフェの開催 					
<p>さまざまな区民が参加し交流するコミュニティカフェを開催し、区民同士の交流と、地域活動をはじめるきっかけづくりを行います。</p>	H28実施回数：11回	実施回数：11回	実施回数：11回	実施回数：11回	実施回数：11回	→ 事業推進

安全で安心して暮らせるまちづくりの推進

主な取組の方向性

自主防災組織等と連携した訓練の実施や、区内に立地する企業や隣接区との防災に関する連携を強化することで、発災時に地域住民や企業、関係団体・機関、行政等が、それぞれの役割を果たし、迅速かつ的確な対応ができる地域づくりを進めるとともに、自転車事故等の防止に向けた啓発等の取組を推進します。

事業名	現状	事業内容・目標					
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降	
地域防災活動推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ●幸区災害対策協議会を中心とした防災対策の推進 ○協議会の開催 ○各部会の開催 						
<p>幸区災害対策協議会の運営等を通じて、地域住民や企業、関係団体・機関等の中で情報共有・課題検討などを行い、地域の防災活動に関する連携強化の取組を進めます。</p>	H29開催回数：3回	開催回数：3回	開催回数：3回	開催回数：3回	開催回数：3回	→ 事業推進	
	H29開催回数：12回	開催回数：12回	開催回数：12回	開催回数：12回	開催回数：12回	→	
	<ul style="list-style-type: none"> ●隣接区（川崎市・中原区・横浜市鶴見区）との連携強化 ・訓練等の合同実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所訓練、帰宅困難者対策訓練等の合同実施 					→
幸区災害対策推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ●避難所開設・運営訓練の運営支援の実施 ○「幸区避難所開設・運営訓練マニュアル」を活用した訓練の運営支援 						
<p>訓練の運営支援や講座等の開催による自主防災組織・避難所運営会議の活性化、地域住民や企業、関係団体・機関等との連携による実践的な総合防災訓練の実施、区本部・避難所の防災資器材の充実など、区内の防災基盤整備の取組を進めます。</p>	H29訓練回数：23回	<ul style="list-style-type: none"> ・区内の全避難所（23か所）での訓練支援の実施 					→ 事業推進
	<ul style="list-style-type: none"> ●幸区総合防災訓練の支援 ○地域住民や企業、関係団体・機関等との連携による実践的な訓練の実施 						
	H29実施回数：2回	実施回数：2回	実施回数：2回	実施回数：2回	実施回数：2回	→	
	<ul style="list-style-type: none"> ●防災資器材等の充実・強化 ○訓練用トリアーシタッグ、板書用壁面シート等の防災資器材等の計画的な配備の推進 						
	<ul style="list-style-type: none"> ・資器材等の配備 	継続実施					→
	<ul style="list-style-type: none"> ●自主防災組織等の活性化に向けた取組の実施 ○活性化講座の実施 						
	H29実施回数：2回	実施回数：2回	実施回数：2回	実施回数：2回	実施回数：2回	→	

事業名	現状	事業内容・目標				
	平成28～29 (2016～17) 年度	平成30 (2018) 年度	平成31 (2019) 年度	平成32 (2020) 年度	平成33 (2021) 年度	平成34 (2022) 年度以降
交通安全普及啓発事業 スカードストリート方式の交通安全教室の実施等により、危険回避意識と交通安全知識の習得などを目的とした啓発活動を進めます。	● 幼児から高齢者まで幅広い年齢層を対象とした各種交通安全教室の実施 ○警察及び関係団体と連携した各種交通安全教室の実施 H29実施回数：53回	実施回数：50回程度	実施回数：50回程度	実施回数：50回程度	実施回数：50回程度	→ 事業推進
	○中学校、高校等におけるスカードストリート方式の交通安全教室の実施 H29実施回数：3回	実施回数：3回	実施回数：3回	実施回数：3回	実施回数：3回	→
	● 啓発活動の実施 ○警察及び関係団体と連携した交通安全キャンペーン等の啓発活動の実施 ・各季及び強化月間における啓発活動の実施	継続実施				→
安全・安心まちづくり普及啓発事業 街頭キャンペーンの開催、町内会等と連携した防犯パトロールの実施などを通じて、地域に根ざした啓発活動を進めます。	● 地域の防犯意識の醸成 ○町内会等と連携した防犯パトロールの実施 ・防犯パトロールの実施	継続実施				→ 事業推進
	● 子どもの安全確保に向けた地域見守り活動の推進 ○町内会等と連携した子ども安全の日パトロール等の実施 ・子ども安全の日パトロールの実施（月2回）	実施回数：月2回程度	実施回数：月2回程度	実施回数：月2回程度	実施回数：月2回程度	→
	● 啓発活動の実施 ○街頭キャンペーンの開催 H28実施回数：2回	実施回数：2回	実施回数：2回	実施回数：2回	実施回数：2回	→

総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

基本政策3

基本政策4

基本政策5

政策体系別計画

区計画

進行管理・評価



地域の課題解決に向けたその他の取組

取組の柱 区名	事業名	概要	現状	事業内容・目標					
			平成28～29 (2016～17) 年度	平成30 (2018) 年度	平成31 (2019) 年度	平成32 (2020) 年度	平成33 (2021) 年度	平成34(2022) 年度以降	
幸区									
地域資源を活かしたまちづくりの推進									
	区の木・花推進事業	幸区誕生40周年を記念して制定した、区の木・区の花（ハナミズキ・ヤマブキ）を区民に広く周知します。	<ul style="list-style-type: none"> ●地域への愛着を深める広報イベントの実施 ●区の木・花の植樹 ●啓発物品の作成 						事業推進
	地域資源を活かしたまちづくり事業	日吉地区で活動するさまざまな団体がネットワークをつくり、地域固有の資源を活用した身近なまちづくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ●日吉のタカラモノ活用事業の実施 ●郷土の歴史と文化を活かした日吉まちづくり事業の実施 						事業推進
	さいわいはじめようエコ事業	子ども向けイベントの開催や環境啓発パネルの活用など、多様な年齢に即した意識啓発活動を推進します。	●子ども向け環境啓発イベントの実施						事業推進
	さいわいガイドマップ発行事業	ガイドマップの発行を通じて、転入者等へ区民生活に必要な情報を提供し、地域理解の促進を図ります。	●「さいわいガイドマップ」の作成・配布						事業推進
健康で安心して暮らし続けられるまちづくりの推進									
	区民のための感染症予防事業	リーフレットを発行し、感染症予防に関する知識の普及啓発を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ●「手洗いうがいのハンドブック」の発行 ●保育園等を対象とした手洗い講習会の実施 						事業推進
安心して子育てできるまちづくりの推進									
	幸区待機児童対策事業	多様な保育事業に関する情報提供を行い、保育の選択肢を広げ、利用者に対するきめ細やかな相談・支援を実施して待機児童の解消を図ります。	●多様な保育事業に関する情報提供の実施						事業推進
地域コミュニティ活性化の推進									
	区民祭開催経費	地域に密着した事業である幸区民祭の開催を支援し、新旧区民の交流と連帯を深め、地域コミュニティの活性化を進めます。	●「幸区民祭実行委員会」への経費補助を通じた区民祭の開催支援						事業推進
安全で安心して暮らせるまちづくりの推進									
	案内サイン設置事業	区庁舎等への案内サインの整備を通じて、災害時の帰宅困難者等を適切に誘導するなど、利便性の向上を図ります。	●案内サインの設置及び盤面更新の実施						事業推進
区役所サービス向上事業									
	区民に身近な区役所づくり推進事業	転入世帯への必要書類の事前配布や説明などを通じて、区役所窓口の利便性の向上や、満足度の高いサービスの提供を推進します。	●大規模住宅等への入居世帯に対する転入手続に必要な書類の事前配布等						事業推進
	幸区情報発信推進事業	「さいわい広報特別号」の発行等を通じて、区政情報等を広く区民へ周知する取組を推進します。	●「さいわい広報特別号」の発行						事業推進
	さいわい区民アンケート事業	区政に対する区民の意識を多面的に調査し、今後の区政運営や地域課題の解決に向けた参考としていきます。	●区民アンケート調査の実施						事業推進

総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

基本政策3

基本政策4

基本政策5

政策体系別計画

区計画

進化管理・評価

取組の柱 区名	事業名	概要	現状	事業内容・目標				
			平成28~29 (2016~17) 年度	平成30 (2018) 年度	平成31 (2019) 年度	平成32 (2020) 年度	平成33 (2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
幸区								
地域課題対応その他事業								
	幸区提案型協働推進事業	地域課題の解決に向け、公益性の高い事業を実施できる市民活動団体等から事業提案を募集し、行政と提案団体との協働により事業を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の提案募集及び審査・決定 ●事業の実施 ●事業の評価 					事業推進
	その他経費	幸区地域課題対応事業の効率的・効果的な推進を支えるため、必要となる事務・管理運営を行います。	●地域課題対応事業を支える事務等の実施					事業推進
区の新たな課題即応事業								
	区の新たな課題即応事業	新たに生じた課題に、適切かつ迅速に対応し、解決に向けた取組を推進します。	●新たに発生する課題に対応する事業の実施					事業推進



“それいいね”が広がるまちづくりに向けて

●子どもから高齢者まで誰もが安心して暮らせるために

地域包括ケアシステムの構築に向け、自助・互助の取組の推進が求められている中、区内では、身近な地域で多様な主体が交流・連携し、地域全体でさまざまな支え合いが行われています。

「多世代が交流し子育てを支援」～赤ちゃんハイハイあんのつどい～

- 町内会・自治会、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会などの地域の方々や中学生が担い手となって、日吉中学校体育館で年に1度、秋頃に開催しています。100組前後の親子が集い、ハイハイの大会や親子あそびなどが行われ、多世代交流の場にもなっています。



中学生も毎年参加！

「家族みんなで災害に備える」～女性の住民グループによる啓発活動～

- 区内のマンション住民でつくるオーベルグランディオ川崎ガールズ会が、非常食の備蓄方法であるローリングストック法や簡単なレシピを掲載したリーフレットを作成し、区内で啓発活動を行っています。女性グループの視点で、日頃からの災害への備えとしてできることを考え、多くの区民に広がっていくことを目指して取組を続けています。



防災訓練会場での啓発活動

「移動販売も行うパンが好評！」～セルフきたかせ～

- 区内の福祉複合施設内にある障害者サービス事業所「セルフきたかせ」では、パン作りや販売を行うほか、同じ複合施設内にある保育園に給食として提供するなど、障害を持つ方が地域においてともに支え合う輪の中で活動しています。事業所が作るパンは、地域のイベントでの販売や、区役所4階のラウンジヤマブキでも定期的に販売しており、利用者に大変喜ばれています。



イベントでの販売も好評です

「住民同士の見守り活動の実践」～幸区ご近所支え愛モデル事業～

- 町内会・自治会を中心とした地域の方々、「何らかの支援を必要とする人」へ声掛けをしたり、地域行事の参加を通じた見守り活動を行うなど、住民同士の支え合いを平成27（2015）年度からモデル事業として進めています。平成29（2017）年度は16の地域で活動が展開されています。



見守り活動のためのマップ作りなども行っています。



濃く塗られた地域で実施しています。

総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

基本政策3

基本政策4

基本政策5

区計画

進行管理・評価

政策体系別計画

● 夢見ヶ崎公園（加瀬山）の魅力発信

貴重な自然環境が残り、市内唯一の動物公園がある夢見ヶ崎公園（加瀬山）を、地域の魅力的な資源として大切に思い、地域のさまざまな世代の団体や企業などの多様な主体が、地域のために熱心な活動を展開しています。

「緑の維持管理や昔あそびを教える活動などを続けています」～さいわい加瀬山の会～

- 緑の環境で健康と地域の歴史をつなぐことを目的として、22名の地域住民が会員となり、樹木の維持管理や、近隣の幼稚園児・小学生との花植え活動、区内のイベント等での竹遊具工作や昔あそびを教える活動などをボランティアで行っています。



小学生との花植え活動

「夢見ヶ崎公園でキャンプを実施しました！」～ゆめみん～

- 地元在住のWEBデザイナーや子育て支援活動等を行ってきた住民が団体を設立し、平成29（2017）年9月に「夢見る星空キャンプ」を企画・実施しました。20名ほどのメンバーにより、地域の魅力を再発見し市内外へ伝え、文化をつくる一助になりたいとの思いで、こうした新しい取組も始まっています。



いつもの公園が幻想的な世界に！

「オリジナルの動物図鑑も作れます！！」～企業も地域活動に参加～

- スマートフォンのアプリ開発等を行う企業が市と協定を締結し、無料アプリの提供を行っています。夢見ヶ崎動物公園の動物たちをスマートフォンで撮影し、自分だけの動物図鑑を作ることができます。同社は春や秋の動物園まつりにも参加し、完成した図鑑のデモ印刷などを行い、多くの来場者との交流も図っています。



2冊の図鑑が作れます！！

「新たなつながりも生まれています」～多様な主体が連携～

- 上記の団体等のほか、日吉商店街連合会や「日吉のわっ」実行委員会、夢見ヶ崎プレーパークをつくる会、GABU（歌やダンスを行うグループ）が新川崎駅周辺のマンション住民とともに、「夢見ヶ崎動物公園（加瀬山）の賑わい創出」をテーマにグループワーク等を行い、参加者同士で連携を深めています。



グループワークでの熱心な議論

★ 市民の想い、メッセージ

- 夢見ヶ崎公園（加瀬山）を地域の大切な宝と思い、大変多くの人たちが、自ら活動していることや、これから何かをやりたいと思っていることが分かり、感動しました。
- これまで気がつかなかった地域の魅力や、皆さんの様々な得意分野を知ることができて、とても良かったです。今後もみんなが連携を深めて、取組につながっていけばうれしいです。

「夢見ヶ崎動物公園（加瀬山）の賑わい創出」をテーマにしたグループワークより

区のマップとの対応表

● 福祉施設

名称	開所予定	定員	MAP 番号
にじいろ保育園北加瀬	H30(2018)	70人	①
SPACE KID 保育園	H30(2018)	80人	②
マジオたんぼ保育園下平間	H30(2018)	30人	③

● 道路・公園

名称	事業概要	事業予定	MAP 番号
末吉橋の整備	橋りよの架替	H30(2018) 工事着手 H40(2028) 完成	④
JR 南武線 連続立体交差事業	事業化に向けた取組	事業推進	⑤
御幸公園の取組	区民との協働による植樹等の取組や公園内の散策路等の整備	事業推進	⑥
夢見ヶ崎動物公園の施設整備に向けた取組	公園内の施設整備等に向けた取組	事業推進	⑦

● その他

名称	事業概要	事業予定	MAP 番号
不燃化重点対策地区の取組(幸町周辺地区)	老朽木造住宅等が密集している幸町周辺地区における災害に強い住環境形成の推進	事業推進	⑧
市立看護短期大学の改修	4年制大学化に向けた改修工事	H33(2021)着手 H34(2022)開学	⑨
東小倉小学校の校舎増築	校舎の増築工事	H31(2019)着手 H32(2020)完成	⑩
新川崎地区の小学校新設	児童生徒の増加に対応した小学校の新設	H35(2023)以降開校	⑪
塚越中学校の校舎増築	校舎の増築工事	H30(2018)完成	⑫
幸市民館の改修	幸市民館設備の長寿命化に伴う改修	事業推進	⑬
新川崎・創造のりのり整備	産学交流・研究開発施設(AIRBIC)の整備	H30(2018) 供用開始	⑭
川崎駅周辺地区の整備	ミューザ川崎北側エスカレーター屋根の整備	H30(2018)完成	⑮
	北口西バス乗り場出入口の整備	H31(2019)完成	
ミューザ川崎シンフォニーホールの大規模修繕	大規模修繕の実施	工事期間 H30(2018)～ H31(2019) ※うち6か月程度	⑯

地域の課題解決に向けた取組の一覧	事業名（○は本計画で「計画期間の主な取組」として掲載している事業）
地域資源を活かしたまちづくりの推進	
	○ 御幸公園梅香事業
	○ 音楽のまち推進事業
	○ さいわいものづくり体験事業
	○ 花と緑のさいわい事業
	○ 地域の魅力発信事業
	区の木・花推進事業
	地域資源を活かしたまちづくり事業
	さいわい・はじめようエコ事業
	さいわいガイドマップ発行事業
健康で安心して暮らし続けられるまちづくりの推進	
	○ 幸区ご近所支え愛事業
	○ 健康長寿推進事業
	○ 保健福祉情報発信事業
	○ さいわい食品衛生啓発事業
	○ さいわい動物愛護推進事業
	区民のための感染症予防事業
安心して子育てできるまちづくりの推進	
	○ 総合的なこども支援ネットワーク事業
	○ こども・子育て支援事業
	○ 保育所等活用事業
	○ 児童虐待防止・こども相談支援事業
	○ 幸区こども学習サポート事業
	幸区待機児童対策事業
地域コミュニティ活性化の推進	
	○ 地域コミュニティ推進事業
	○ 市民活動等支援事業
	○ 幸区多文化共生推進事業
	○ スポーツ推進事業
	○ コミュニティカフェ推進事業
	区民祭開催経費
安全で安心して暮らせるまちづくりの推進	
	○ 地域防災活動推進事業
	○ 幸区災害対策推進事業
	○ 交通安全普及啓発事業
	○ 安全・安心まちづくり普及啓発事業
	案内サイン設置事業
区役所サービス向上事業	
	区民に身近な区役所づくり推進事業
	幸区情報発信推進事業
	さいわい区民アンケート事業
地域課題対応その他事業	
	幸区提案型協働推進事業
	その他経費
区の新たな課題即応事業	
	区の新たな課題即応事業

中原区



■人口 254,414人 ■世帯数 127,987世帯
 ■面積 14.81 km² (平成30(2018)年1月1日現在)

中原区の花



「パンジー」

中原区の木



「モモ」



中原区の概要

- 中原区は、本市のほぼ中央に位置しており、中原御殿（平塚市）と江戸を結ぶ中原街道の中継地としての仮御殿が小杉にあったことから中原区と名づけられました。区域の大部分は平坦な地形が広がっており、住宅地に点在する生産緑地には区の花パンジーなどを栽培する風景も見られ、横浜市と接する南西部の井田地区は豊かな緑の残る丘陵地となっています。東京、横浜、川崎南部地域の郊外型住宅地として都市化、商業地の形成が進み、あわせて、都心に本社機能を持つ企業を中心に生産部門が進出し、現在のまちの骨格が形成されました。近年は産業構造の転換を先取りした企業による研究・開発部門などの都市型産業が武蔵小杉駅、武蔵中原駅、向河原駅周辺を中心に立地しています。
- 武蔵小杉駅周辺では大規模な再開発事業が展開されており、都市型住宅の建設が引き続き進んでいます。また、近年大規模な商業施設の開業が相次いでおり、多くの方が訪れています。
- 駅周辺の開発により近年の人口増加は著しく、平成28(2016)年5月には、昭和57(1982)年に7区に分区して以降、川崎市内の区として初めて人口が25万人を超え、今後も更なる人口増加が見込まれており、人口、世帯数ともに市内で最も多い区となっています。また、生産年齢人口の割合が7区で最も高く、老年人口(65歳以上)の割合は最も低いため、区民の平均年齢は最も低くなっています。出生数及び市外からの転入者数が7区で最も多く、転入者の7割を20～30歳代が占めており、新たに中原区で生活する若年層の世帯が、区内で子育てするケースが増えています。

中原区的主要地域資源・魅力など



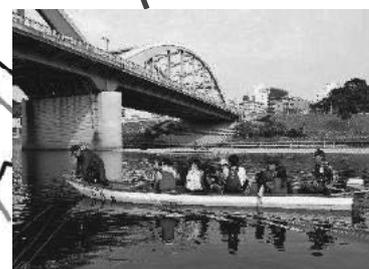
等々力緑地



武蔵小杉駅周辺



二ヶ領用水



多摩川

総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

政策体系別計画

基本政策3

基本政策4

基本政策5

区計画

進行管理・評価



まちづくりの方向性

水と緑と笑顔が会い 未来につなぐ 住み続けたいまち なかはら

- 中原区は、等々力緑地、多摩川沿いの緑や二ヶ領用水の水辺、井田山などの自然に恵まれるとともに、都心への交通利便性に優れており、武蔵小杉駅周辺は、都市型住宅が立ち並び、商業も賑わう、生活利便性が高く都市機能が集約されたコンパクトなまちです。
- 街なみが大きく変わっていく中、さまざまな世代が交流することでまちに活気があふれ、人と人がつながりを大切にしながら、区民が地域に愛着と誇りを持ち、これからも住み続けたいと実感できるまちづくりを進めます。



第1期の主な取組状況

●地域活性化に向けたコミュニティづくりの推進

武蔵小杉駅周辺の再開発などによるまちの変化に対して、武蔵小杉駅周辺地域連携推進会議を開催し、区民同士の顔が見える関係づくりやコミュニティの強化を推進しています。また、地域交流の促進や区のイメージアップをめざして、地域メディアが連携して区内の情報を発掘・発信する「なかはらメディアネットワーク」の取組などとともに、商店街と連携した地域交流の促進や市民活動団体への支援を推進しています。

●安全・安心なまちづくりの推進

台風・豪雨・地震などの災害時に備え、区民、企業、行政等が連携して、避難所のスムーズな開設・運営を行うための活動支援や、武蔵小杉駅周辺の帰宅困難者対策に取り組んでいます。また、地域による防犯活動の支援や広報・啓発を行うとともに、地域の安全・安心に関わる情報を効果的に配信するしくみづくりを進めたほか、スタントマンが事故を再現するスクアードストレート方式の交通安全教室を実施するなど、自転車による交通事故の防止に向けた取組を推進しています。

●区民と協働したこども支援の推進

区民が中心になった子育て支援が活発に行われており、こうした地域の自主的な活動を継続して支援しています。また、「中原区子育て情報ガイドブック」などを通じた子育て情報の発信や保護者に寄り添った相談・支援の取組を充実するとともに、子育てを支えるボランティア活動に参加しやすい環境づくりや、子育て家庭の交流の場づくりなどに取り組んでいます。

●人と人との出会いを橋わたしする地域福祉の活性化

高齢者、障害者、子どもなど、誰もが安心して地域で暮らし続けることができるよう、住民同士の交流の場のきっかけづくりとして、防災訓練の場を活用した地域づくりのワークショップの開催や、まつりの機会を活用した地域活動の情報発信など、地域のさまざまな主体による人と人をつなげる橋わたしの取組を積極的に推進しています。

●スポーツ・文化資源・みどりなどの地域資源を活用したまちづくりの推進

かわさきスポーツパートナーなどと連携したスポーツ教室の開催等、地域でスポーツに親しむ機会を増やすとともに、区内中学生・高校生による吹奏楽コンサートやアマチュアバンドなどによる区民参加型の音楽イベント「In Unity」の開催、花や緑を活用した地域の魅力づくりなどを通じて地域間・世代間交流を深め、元気とうるおいのあるまちづくりを進めています。

●区役所サービスの環境改善

区役所サービスの向上のため、窓口の増設、待合スペースの確保のほか、混雑情報の発信やメールでのお呼び出しサービスの導入など、窓口混雑の解消に向けた取組を進めています。

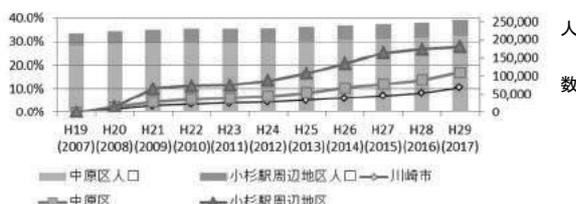


現状と課題

● 武蔵小杉駅周辺の再開発などにより、新たな区民が増えています。

区内全域で住宅開発が進み、ここ10年間で人口増加率が17.0%と新たな区民が増え続けています。特に武蔵小杉駅周辺では、大規模な再開発に伴う高層マンションの建設によって人口増が顕著であり、武蔵小杉駅周辺全体の将来像を見据えた、持続可能なコミュニティづくりを進めるとともに、今後も、住みたい、住み続けたいと感じられるまちづくりを進めていく必要があります。

川崎市・中原区・武蔵小杉駅周辺の人口増加率の推移（各年9月末時点）



※武蔵小杉駅周辺地区は周辺14町丁目を対象

資料：市町丁別世帯数・人口

● 災害対策、防犯、交通安全など、安全・安心への対策が求められています。

- 戸建や大規模マンションなど住居の多様性、人口増や企業・商業施設の集積、多数の利用者を有する駅の存在や多摩川などの自然環境を踏まえ、区内で発生が想定されるさまざまな災害への的確な対応が必要となります。平成28(2016)年度区民アンケートでは、今後、特に力を入れてほしい区役所の業務として、「地震や風水害への対策」が最も高い結果(43.2%)となる一方、「交通事故・危険物からの安全さ」に対する満足度が低いなど、防災や交通安全に関する対策が求められています。

また、区内の人身交通事故に占める自転車交通事故の割合が高いことから、自転車交通ルールを守る意識の啓発が求められています。

● 子育て世代の転入が多く、地域と子育て世帯のつながりが大切になっています。

- 平成29(2017)年9月末現在、中原区の年少人口(0~14歳)は33,373人と7区で最も多く、子育て世代の区内転入に伴って子どもの人口が急激に増加している中、平成28(2016)年度区民アンケートでは、今後、特に力を入れてほしい区役所の業務として、「子ども・子育ての支援」が2位となっています。
- このため、引き続き多様な保育ニーズへの対応や保育の質の向上に取り組むとともに、慣れない土地での孤立感や、育児に対する不安・悩みを抱えた子育て家庭を地域全体で支え合うしくみの一層の充実が求められています。



子育てふれあい広場「子育てサロン」

● 高齢者の5人に1人がひとり暮らしとなっています。

- 平成29(2017)年9月末現在の高齢化率は、7区で最も低い15.5%となっていますが、以前からの住宅地など一部の地域では高齢化率が20%を超えるところもあります。そのため、今後の高齢化を見据えた地域への働きかけとともに、高齢化率の高い地域への適切な支援が求められています。
- また、平成27(2015)年10月国勢調査によると、1世帯あたりの人員が2人以下と少なく、特に高齢者の22.1%がひとり暮らしとなっていることから、閉じこもりによる孤立の防止や地域で支え合う意識の醸成、活動の担い手の育成、支援が必要な人が的確に支援を受けられる取組など、地域全体での見守りや支え合いのしくみづくりの必要があります。



介護予防などを通じた交流の場づくり



●「住みたい」、「行きたい」と感じる魅力や多くの地域資源があります。

- 区内には二ヶ領用水、井田山の緑地、下小田中の農地など豊かな自然環境や中原街道沿いの歴史ある文化資源などが残っているほか、等々力緑地内には陸上競技場やアリーナなどのスポーツ・レクリエーション施設、市民ミュージアムといった文化・芸術施設などがあり、魅力的な地域資源に恵まれています。また、中原区を拠点とするサッカー、バスケットボール、バレーボールのスポーツチームの活躍や、東京 2020 オリンピック・パラリンピックに出場する英国代表チームのキャンプ地としての気運の醸成を、区民が地域に誇りや愛着を持つ契機とするなど、地域の魅力的な資源の区内外への効果的な発信や活用が求められています。



「陸上競技場」をはじめ「アリーナ」や「ミュージアム」などさまざまな施設を有する等々力緑地

●人口の増加に対応した区役所サービスが求められています。

- 区役所敷地の有効活用等を図りながら、人口増に伴って増加する来庁者数に対応した区役所サービスの更なる向上や改善とともに、区役所庁舎の狭あい化や老朽化への適切な対応を進めていく必要があります。



計画推進の主な視点

- 武蔵小杉駅周辺の急激な人口増加に伴い、住民同士のつながりが希薄にならないよう、豊富な地域資源などを活用しながら、地域の交流・賑わい創出や地域の実状に応じたコミュニティ形成に向けた支援が必要です。
- 子育て世代の転入者が多いことや年少人口が増加していることなど、地域の特徴を踏まえた地域づくりを進めながら、多様な保育ニーズへの対応や地域全体で子育てを応援する環境を充実していく必要があります。



計画期間の主な取組

地域活性化に向けたコミュニティづくりの推進

主な取組の方向性

武蔵小杉駅周辺の再開発等によるまちの変化に対応しながら、地域が主体となるまちづくりを進めるとともに、地域の賑わい・交流創出に向けたしくみづくりを行います。また、地域交流の促進や区のイメージアップをめざして、地域メディアが連携して区内の情報を発掘・発信する「なかはらメディアネットワーク（NMN）」の取組などを推進します。

事業名	現状		事業内容・目標			
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
小杉駅周辺の新たなコミュニティ推進事業 まちの変化に対応しながら地域発意に基づく新たなコミュニティ形成支援の推進に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ●小杉駅周辺の魅力づくりに向けた取組の推進 ○中原区の地域課題の検証や地域のコミュニティ形成に向けた検討等 H29武蔵小杉駅周辺地域連携推進会議の開催数：2回 ○新たなコミュニティ推進に向けた取組の実施 H29リーディング事業：3事業 リーディング事業：3事業 ・リーディング事業の効果検証 ○地域の魅力づくりの推進やコミュニティ形成に向けた計画の策定 ・計画の策定 ●地域コミュニティ強化に向けた取組の支援 ・課題の整理、解決に向けた方向性の検討 ・新たなしくみの検討・再構築の支援 ●公共空間の更なる利活用のための取組の検討・推進 ・こすぎコアパーク等における実証事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 会議開催数：2回 リーディング事業：3事業 ・新たなしくみの構築に係る地域との調整 ・新規マンションの自治機能構築に向けた調整 ・こすぎコアパーク等における実証事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 会議開催数：2回 ・検証結果に基づきリーディング事業の実施 ・計画に基づく事業の実施・検証 ・新たなしくみの構築 ・新規マンションに対するアプローチ ・地域主体の賑わいづくりの側面支援 	<ul style="list-style-type: none"> 会議開催数：2回 会議開催数：2回 	<ul style="list-style-type: none"> 会議開催数：2回 会議開催数：2回 	事業推進
中原区広報・広聴推進事業 地域メディア等と連携しながら、区の魅力発信などの充実に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ●効果的な地域情報の発信に向けた取組の実施 ○メディアを活用した情報発信の推進 ・なかはらメディアネットワーク（NMN）との連携 ○地域におけるきめ細かな情報発信場所の確保 H29情報コーナーの設置か所数：19か所 ・情報コーナーの設置による情報発信 ●区民アンケートの実施及び分析 ・H28実施 ・H29取組への活用 	<ul style="list-style-type: none"> 継続実施 ・アンケートの実施、結果の精査 	<ul style="list-style-type: none"> 結果の各取組への活用 ・アンケートの実施、結果の精査 	<ul style="list-style-type: none"> 結果の各取組への活用 結果の各取組への活用 	<ul style="list-style-type: none"> 結果の各取組への活用 結果の各取組への活用 	事業推進
商店街と連携した地域のまちづくり推進事業 商店街を地域の情報交換や交流の場として活用し、地域交流を促進します。	<ul style="list-style-type: none"> ●商店街と連携した地域交流の促進 H29各種教室の実施：8回 H29交流イベントの実施：1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種教室や交流イベントの実施 				事業推進

総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

基本政策3

基本政策4

基本政策5

政策体系別計画

区計画

進行管理・評価



事業名	現状		事業内容・目標			
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
市民活動活性化事業 市民活動団体の交流の促進及び活動の支援により、地域の活性化を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ●活動拠点の提供など区民との協働による活動活性化のための支援 ・中原区民交流センター「なかはらっば」の運営 	継続実施				事業推進
	<ul style="list-style-type: none"> ●市民活動団体間の交流の促進 H29交流会「なかはらっば祭り」の開催：1回 	交流会「なかはらっば祭り」の開催：1回	交流会「なかはらっば祭り」の開催：1回	交流会「なかはらっば祭り」の開催：1回	交流会「なかはらっば祭り」の開催：1回	
案内サイン情報更新事業 東京2020オリンピック・パラリンピックを見据え、表示内容の更新や、多言語表示を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ●盤面表示内容の検証・更新 H28検証か所：51か所 	<ul style="list-style-type: none"> ・盤面表示内容の検証・更新 				事業推進

安全・安心なまちづくりの推進

主な取組の方向性

防災にかかわる情報の共有に加え、自助・共助（互助）を基本として地域の防災力強化の担い手を育成するとともに、「武蔵小杉駅周辺地域エリア防災計画」に基づく帰宅困難者訓練など、地域特性を踏まえた防災対策に取り組めます。また、地域における防犯活動の支援や交通安全教室の開催等を通して、交通事故の防止に取り組めます。

事業名	現状		事業内容・目標			
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
地域防災力強化事業 自助・共助（互助）・公助の考え方にに基づき、区民、企業、行政等が連携した防災対策に取り組めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●自助・共助（互助）による地域防災力の強化に向けた取組の推進 ○避難所訓練など避難所運営会議による避難所の自主運営に向けた支援 H29避難所運営会議の活動支援：27回 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所運営会議の活動支援：28回 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所運営会議の活動支援：28回 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所運営会議の活動支援：28回 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所運営会議の活動支援：28回 	事業推進
	<ul style="list-style-type: none"> ○区総合防災訓練に合わせた実践的な避難所訓練の実施支援 H28区総合防災訓練に合わせた避難所訓練の実施支援：2地区 	<ul style="list-style-type: none"> 実施箇所：2地区 	<ul style="list-style-type: none"> 実施箇所：2地区 	<ul style="list-style-type: none"> 実施箇所：2地区 	<ul style="list-style-type: none"> 実施箇所：2地区 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○施設面における避難所の円滑な開設・運営に向けた準備の実施 ・避難所開設に備えた資機材の配備 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川氾濫による避難所開設に備えた資機材の配備 				
	<ul style="list-style-type: none"> ○中原区総合防災マップの作成、区内全世帯等への配布 ・中原区総合防災マップの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・マップの作成、配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・転入者等への配布 			
	<ul style="list-style-type: none"> ●中原区総合防災訓練の実施 ○区民や関係機関との連携による地域特性に応じた実践的な訓練の実施 H29実施回数：2回 予定（大戸小、上丸子小） 	<ul style="list-style-type: none"> 実施回数：2回 住吉地区、玉川地区 	<ul style="list-style-type: none"> 実施回数：2回 大戸地区、小杉・丸子地区 	<ul style="list-style-type: none"> 実施回数：2回 住吉地区、玉川地区 	<ul style="list-style-type: none"> 実施回数：2回 大戸地区、小杉・丸子地区 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的・実践的な災害対応力の強化に向けた取組の推進 ○エリア防災計画に基づく、駅や地域関係者が連携した帰宅困難者訓練の実施 H28帰宅困難者対策訓練の実施：約160人参加 	<ul style="list-style-type: none"> 実施回数：1回 	<ul style="list-style-type: none"> 実施回数：1回 	<ul style="list-style-type: none"> 実施回数：1回 	<ul style="list-style-type: none"> 実施回数：1回 	
			※関連する事務事業：施策1-1-1「地域防災推進事業」			

事業名	事業内容・目標					
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
中原区安全・安心まちづくり推進事業 区民、地域団体、行政等が連携して地域の防犯力及び防犯意識の向上を図ります。	●地域の防犯力・防犯意識の向上 ○地域防犯活動団体への防犯資機材（ベスト、誘導灯など）の貸与等の実施 ・防犯資機材の貸与等 継続実施 ○防犯に関する研修・講座の実施 H28研修・講座の実施：8回					事業推進
交通安全教室開催事業 区民を対象にスクエアストリート方式による交通安全教室等を開催し、安全な自転車の乗り方等のルール・マナーを習得してもらうなど、交通事故防止に取り組みます。	●幼児から高齢者まで幅広い年齢層を対象とした各種交通安全教室の実施 ○スクエアストリート方式の交通安全教室の実施 H28実施：5回					事業推進
放置自転車対策事業 自転車利用者のモラルやマナーの向上を図るため啓発活動を行います。	●自転車利用者のモラルやマナー向上のための啓発活動の実施 H28交通安全キャンペーン：17回					事業推進



中原区総合防災訓練
(耐震住宅模型を使った家屋倒壊シミュレーション)



中原区総合防災訓練
(火起こし体験)

総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

基本政策3

基本政策4

基本政策5

区計画

進行管理・評価



区民と協働したこども支援の推進

主な取組の方向性

区民が主体的に運営する子育てサロンなど、地域の自主的な活動を継続して支援するとともに、さまざまな情報ツールによる効果的な子育て情報の発信や、子育て支援者の養成等に取り組みます。

事業名	事業内容・目標					
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
中原区子育て支援推進事業 親子の孤立を防ぎ、子育て中の不安を軽減するために、地域の特性を活かした子育てサロン等の運営を支援します。	●子育て世代の仲間づくりやコミュニケーション活動等の支援 ○民生委員児童委員などによる子育てサロンの運営支援 H29子育てサロン：16か所 子育てサロン：15か所 子育てサロン：15か所 子育てサロン：15か所 子育てサロン：15か所 → 事業推進 ○地域のボランティアにより実施される子育てふれあい広場（子育てサロンの運営支援） H29ふれあい広場：3か所 子育てサロン：15か所 子育てサロン：15か所 子育てサロン：15か所 子育てサロン：15か所 → 3か所 子育てサロン：15か所 子育てサロン：15か所 子育てサロン：15か所 子育てサロン：15か所 ○中原区子育て支援推進実行委員会全体会の開催 H29開催回数：2回 開催回数：2回 開催回数：2回 開催回数：2回 開催回数：2回 →					
子育て情報発信事業 子育て世代へ向けて、さまざまな情報ツールを活用した情報発信を行います。	●多様な情報ツールを活用した子育て情報の発信 ○新たな情報ツールによる広報の実施 ・ホームページやSNS、かわさき子育てアプリによる広報の実施 → 継続実施 → 事業推進 ○子育てガイドブックの作成、配布 ・「このゆびと～まれ！」の作成・配布 → 継続実施 → ○大型商業施設への広報物の配架 ・武蔵小杉駅周辺の大型商業施設への広報物の配架 → 継続実施 →					
公的児童施設有効活用事業 ハイハイ広場、体験保育、親子連続講座など地域子育て支援事業を実施します。	●公的児童施設を活用した地域における子育て支援の実施 ○公営保育所における地域子育て支援事業の実施 H29ハイハイ広場：54回 ハイハイ広場：54回 ハイハイ広場：54回 ハイハイ広場：54回 ハイハイ広場：54回 → 事業推進 ○こども文化センターにおける地域子育て支援事業の実施 H29親子連続講座：4回 連続講座：4回 連続講座：4回 連続講座：4回 連続講座：4回 →					
子育て支援者養成事業 子育て支援の場を支える新たなボランティアを養成し、地域全体で子育てを応援していく体制づくりを行います。	●地域全体で子育てを応援していく体制づくりの推進 ○子育て支援に関心のある人を対象とした子育て支援者養成講座の開催 H29子育て支援者養成講座：2コース 養成講座：2コース 養成講座：2コース 養成講座：2コース 養成講座：2コース → 事業推進 ●養成講座修了者への支援の実施 ・ボランティア団体との交流・連携による活動先とのマッチング機会の確保 H29フォローアップ講座の開催回数：1回 開催回数：1回 開催回数：1回 開催回数：1回 開催回数：1回 →					

総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

基本政策3

基本政策4

基本政策5

政策体系別計画

区計画

進行管理・評価

人と人との出会いを橋わたしする地域福祉の活性化

主な取組の方向性

すべての地域住民を対象とした地域包括ケアシステムの実現のため、地域のさまざまな主体による人と人をつなげる交流の場づくりや、それを支える活動の担い手づくり、支援が必要な人が的確に支援を受けられる取組など地域の主体的な取組の支援を行います。

事業名	現状		事業内容・目標			
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
中原区地域包括ケアシステム推進事業 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 「地域包括支援ネットワーク」の構築を推進し、保健・医療・介護・福祉等さまざまな社会資源が有機的に連携できるような環境整備を図ります。また、地域包括ケアシステムの情報発信や普及啓発を通して、子ども、高齢者、障害者等すべての地域住民が安心して地域で暮らし続けられるよう取組を進めます。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ●さまざまな主体の参加による地域包括ネットワークの構築 <ul style="list-style-type: none"> ○地域課題の把握、地域づくり・地域活動を行う人材の発掘、育成 	H28地域ケア推進会議の開催：3回	開催回数：3回	開催回数：3回	開催回数：3回	事業推進
	H28地域ケア圏域会議の運営等の支援：28回	・地域ケア圏域会議の運営支援等				
	<ul style="list-style-type: none"> ●5地区の実情に合わせた地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○地区カルテを通じた情報共有や自主的な課題解決に向けた取組の推進 	・中原区地区カルテの作成	・地区カルテの活用、検証、改訂			
	・地域包括ケアシステムに関する情報の提供	継続実施				
	・高齢者見守り、生活援助等の地域での主体的な取組への支援	継続実施				
	・H29地区カルテ活用モデル事業の実施（大戸地区）	・モデル事業の検証と拡大実施				
	<ul style="list-style-type: none"> ○地域包括ケアシステムの推進に関するワークショップ等の開催 	H28ワークショップ開催回数：5回	開催回数：7回以上	開催回数：8回以上	開催回数：9回以上	開催回数：10回以上
		講演会開催回数：1回	開催回数：1回	開催回数：1回	開催回数：1回	
	<ul style="list-style-type: none"> ●地域包括ケアシステムの推進に向けた普及啓発の実施 	・地域ケア圏域会議、民生委員児童委員等との連携による高齢者見守りネットワークの普及啓発の実施	継続実施			
	・介護予防・健康づくりのためのリーフレットの作成、関係団体等を通じた配布	継続実施				
	・在宅療養に関するリーフレットの作成・配布	・リーフレット「（仮称）住み慣れた場所で暮らし続けるには」及びパンフレットの作成・配布				
なかはら福祉健康まつり実施事業 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 福祉・健康に関する各種団体間の交流を図り、地域福祉のネットワークの拡大をめざします。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉関係団体と連携したなかはら福祉健康まつりの開催 	H28開催回数：1回	開催回数：1回	開催回数：1回	開催回数：1回	事業推進
	<ul style="list-style-type: none"> ●参加団体同士の交流促進 	・福祉関係団体や健康関係団体の交流促進支援	継続実施			
	<ul style="list-style-type: none"> ●バラスポーツを通じた障害者理解の促進 	・体験型イベントの実施	・なかはら福祉健康まつりにおける、バラスポーツの体験型イベントの実施			

総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

基本政策3

基本政策4

基本政策5

政策体系別計画

区計画

進行管理・評価



スポーツ・文化資源・みどりなどの地域資源を活用したまちづくりの推進

主な取組の方向性

「かわさきスポーツパートナー」や地域のスポーツ団体などと連携し、地域でスポーツに親しむ機会を増やすとともに、区内にある文化資源や緑を活かして地域間・世代間交流を深め、元気とうるおいのあるまちづくりを進めます。

事業名	事業内容・目標					
	平成28～29 (2016～17)年度	平成30(2018) 年度	平成31(2019) 年度	平成32(2020) 年度	平成33(2021) 年度	平成34(2022) 年度以降
スポーツを通じた地域活性化推進事業 かわさきスポーツパートナーとの連携による事業等により、交流機会を創出し、地域の活性化を図るとともに、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●かわさきスポーツパートナーとの連携による事業の実施 ○親子サッカー教室、バレーボール教室、バスケットボール教室、アメフト・フラグフット普及啓発等の実施 H29スポーツ教室、フラグフットボール大会等の実施：各1回 ●スポーツを通じた地域の交流機会の創出 ・総合型地域スポーツクラブの活動の周知 ●東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組の実施 ○障害者スポーツの普及促進によるかわさきパラムーブメントの取組の実施 					
	スポーツ教室、フラグフットボール大会等の実施：各1回	スポーツ教室、フラグフットボール大会等の実施：各1回	スポーツ教室、フラグフットボール大会等の実施：各1回	スポーツ教室、フラグフットボール大会等の実施：各1回	スポーツ教室、フラグフットボール大会等の実施：各1回	事業推進
		継続実施				
		各種イベントでの障害者スポーツ体験会の実施回数：2回	各種イベントでの障害者スポーツ体験会の実施回数：2回	各種イベントでの障害者スポーツ体験会の実施回数：2回	各種イベントでの障害者スポーツ体験会の実施回数：2回	事業推進
In Unity開催事業 音楽をきっかけとした地域間・世代間の交流を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ●区民ボランティアとの協働による音楽ライブ「In Unity」の開催 H29開催回数：1回(予定) ●こすぎコアパークを中心とした「In Unity」のPRイベントの実施 H29開催回数：5回 					
	開催回数(第20回記念)：1回	開催回数：1回	開催回数：1回	開催回数：1回	開催回数：1回	事業推進
		開催回数：4回以上	開催回数：4回以上	開催回数：4回以上	開催回数：4回以上	事業推進
中原区青少年吹奏楽コンサート事業 青少年の育成、地域間・世代間の交流を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ●中高生の運営参加による青少年吹奏楽コンサートの開催 H29開催回数：1回 					
	開催回数：1回	開催回数：1回	開催回数：1回	開催回数：1回	開催回数：1回	事業推進
区民の手で花いっぱい中原事業 花や緑を活用し住み続けたいと思うまちづくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ●区民ボランティアとの協働による公共花壇の植栽管理や花植体験等の実施 H29維持管理花壇：5か所 					
		継続実施				事業推進



In Unity (インユニティ) 2017



バレーボール教室

総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

基本政策3

政策体系別計画

基本政策4

基本政策5

区計画

進行管理・評価

区役所サービスの環境改善

主な取組の方向性
 今後も人口増加が見込まれ、行政需要の増加が想定される区役所サービスについて、窓口混雑期の対応や区役所施設の狭あい解消などを図ることで、更なる区役所サービスの向上を進めます。

事業名	現状	事業内容・目標				
	平成28～29 (2016～17) 年度	平成30 (2018) 年度	平成31 (2019) 年度	平成32 (2020) 年度	平成33 (2021) 年度	平成34 (2022) 年度以降
区役所サービス向上事業 「区役所サービス向上指針」に基づき、より質の高いサービス提供に向けて窓口環境の改善等を進めます。	●行政需要の増加等に対応した区役所サービスの提供 H28職員研修：2回 H28サービス向上委員会の開催：4回	職員研修：2回 委員会開催数：4回	職員研修：2回 委員会開催数：4回	職員研修：2回 委員会開催数：4回	職員研修：2回 委員会開催数：4回	事業推進
区役所混雑緩和・環境改善事業 混雑緩和に向けた庁舎や敷地の有効活用を進めます。	●行政需要の増加等に対応した区役所サービスの提供 ・繁忙期における混雑緩和に向けた取組等の実施	・中原区業務改善・庁舎レイアウト検討委員会の開催及び検討結果に基づく取組の実施 ・職員提案制度の実施 ・区役所敷地の有効活用に向けた調査・検討の実施				事業推進



中原区子育てイメージキャラクター
 ミ・ケロ



なかはらエコ推進大使
 ロジーちゃん

総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

基本政策3

基本政策4

基本政策5

区計画

進行管理・評価



地域の課題解決に向けたその他の取組

取組の柱 区名	事業名	概要	現状	事業内容・目標				
			平成28~29 (2016~17) 年度	平成30 (2018) 年度	平成31 (2019) 年度	平成32 (2020) 年度	平成33 (2021) 年度	平成34 (2022) 年度以降
中原区								
地域活性化に向けたコミュニティづくりの推進								
	まちづくり推進実践活動事業	区民との協働により、地域課題の解決に向けて検討及び実践活動を行うとともに、中原区内で活動する市民活動団体に対し支援を行うことで、住民主体のまちづくりの推進及び市民活動の活性化を図ります。	●中原区まちづくり推進委員会との協働による住民主体のまちづくりの推進 ●「参加と協働による地域課題の解決の新たなしくみ」の検討とあわせて、まちづくり協議会等 あり方の検討					事業推進 事業推進
	中原区イメージアップ推進事業	「区民が実践する中原区のイメージアップにつながる魅力あるまちづくり」を推進するため、区民との協働により、区内に花回廊を形成し景観向上を図ります。	●区の花「バンジー」を活用した花回廊構想の推進					事業推進
	区民祭開催経費	区内企業及び各種団体等と連携し、「心のふれあう ふるさと中原」をテーマに区民祭を実施します。	●区民祭の開催					事業推進
安全・安心なまちづくりの推進								
	中原区ガイドマップ（安心マップ）作成事業	転入者にガイドマップを配布することにより、災害時に有用な情報や区の基本情報等を転入後速やかに把握してもらい、区民生活の利便性の向上と安全・安心のまちづくりを推進します。	●「中原区ガイドマップ」の作成・配布					事業推進
	自転車と共生するまちづくり事業	自転車利用者のマナー向上をめざし、区民と協働で、武蔵小杉駅周辺及び新丸子駅周辺での放置自転車への警告札貼付や各種イベントでの啓発活動を実施します。	●自転車利用のマナー向上の啓発の実施					事業推進
区民と協働したこども支援の推進								
	働く親世代の子育て支援事業	子育てと仕事の両立をめざす親世代が安心して子育てができるように、講座を実施します。	●働く親世代を支援する両親学級等の実施					事業推進
	中原区子どもの発達支援事業	子どもの発達支援に関わる業務や活動を行っている機関や団体と連携して、課題を共有するために検討会を開催します。また、保護者向けセミナーを開催します。	●発達支援検討会・保護者向けセミナーの実施					事業推進
	幼稚園・保育園・小学校連携事業	「小1プロブレム」を解決するために、幼稚園・保育園・小学校の教職員が幼児・児童に関する諸課題について連携を図っていくことで、就学前後の移行期を円滑につなげます。	●幼稚園・保育園・小学校関係者との会議や情報交換会などの実施					事業推進
	中原区保育所等人材育成・連携事業	保育の質の維持・向上を促していくため、公民保育所間の連携の強化、人材育成研修の充実、保育教材等貸出しを実施します。	●「中原区内人材育成研修」や中原区内認可保育園年長児作品展の実施					事業推進

総論

10年戦略

基本政策1

基本政策2

基本政策3

基本政策4

基本政策5

区計画

進行管理・評価

政策体系別計画

取組の柱 区名	事業名	概要	現状	事業内容・目標				
			平成28~29 (2016~17) 年度	平成30 (2018) 年度	平成31 (2019) 年度	平成32 (2020) 年度	平成33 (2021) 年度	平成34 (2022) 年度以降
中原区								
スポーツ・文化資源・みどりなどの地域資源を活用したまちづくりの推進								
	環境まちづくり支援事業	学校・企業・地域等と連携して、「中原区エコカフェ」、「子ども環境事業」等を実施し、地球温暖化防止に係る地域活動の普及・啓発を行います。	●「中原区エコカフェ」の実施 ●区内企業、市民団体や小学校と連携した「子ども環境事業」の実施					事業推進
	中原区民総ぐるみスポーツ大会開催事業	町内会等が中心となって、小学生及び成年女性のドッジボール並びに小学生向けのスポーツラリーを実施します。	●スポーツ大会の実施					事業推進
	中原区体育及びスポーツ振興事業	各種スポーツ行事に対し区長杯を製作、贈呈することで、スポーツを通じた地域の活性化を図ります。	●区長杯の贈呈によるスポーツ振興の推進					事業推進
	中原区民多摩川ロードレース「マイベース大会」開催事業	マラソン大会を実施することで、区民の健康増進を図るとともに、健康マラソンの普及を図ります。	●中原区民多摩川ロードレース「マイベース大会」の実施					事業推進
	中原区役所コンサート開催事業	ランチタイムにクラシック等のコンサートを実施することで、「音楽のまちづくり」を推進します。	●中原区役所コンサートの実施					事業推進
	歴史と緑を活用したまちの魅力発信事業	「なかはら歴史と緑の散策マップ」を作成するとともに、マップや散策案内板を活用し、区民と協働でまち歩きや講座を実施します。	●「なかはら歴史と緑の散策マップ」の作成 ●「なかはら歴史と緑の散策マップ」を活用した講座の実施					事業推進
地域課題対応その他事業								
	中原区市民提案型事業	市民活動団体等から事業提案を募集し、市が進める協働型事業のルールに基づき、提案団体等と行政が協働で課題解決に向けた取組を実施します。	●市民活動団体等の提案による中原区の課題解決に向けた取組の実施					事業推進
	地域課題対応事業一般経費	地域課題対応事業全般の執行に必要な事務用品の購入、複写品費、郵送などの経費支出を行い、円滑な事業推進を図ります。	●地域課題対応事業全般の円滑な事業推進					事業推進
区の新たな課題即応事業								
	区の新たな課題即応事業	新たに生じた課題に、適切かつ迅速に対応し、解決に向けた取組を推進します。	●新たに発生する課題に対応する事業の実施					事業推進



“それいいね”が広がるまちづくりに向けて

● 豊富な“地域資源”を活かしたまちづくり

中原区では武蔵小杉駅周辺の再開発等により、新たな住民が短期間で大幅に増加しています。このため、住民同士のつながりが希薄とならないようにコミュニティ形成を促進するとともに、地域に対する愛着心や誇りを深めるため、さまざまな地域資源を活用したまちづくりを進めています。

どんな取組みをしているの？

○ 地域のことは地域で考える！

武蔵小杉駅周辺の新たな地域の魅力づくりやコミュニティ形成に向け、地域関係者等による会議や意見交換会などを開催しています。また、武蔵小杉駅前公園の「コアパーク」や近隣の公開空地等を活用してオープンカフェや夏祭、イルミネーションなど季節ごとにイベントを開催し、地域間交流・世代間交流の場として大変盛り上がっています。



コアパークでの夏祭り

○ 地元の商店街が元気です！

中原区内には魅力的で活気のある商店街が数多く存在します。そうした区内の商店街を地域の交流や情報交換の場として活用し、地域の活性化を図るために、商店街の店舗で、各種教室や地域交流イベントを実施しています。商店街を身近に感じてもらうとともに、地域住民の交流機会を創出することで、地域コミュニティの活性化につながっています。



商店街を活用したすし握り教室

○ スポーツを通じたまちづくり！

本市では、川崎で活躍しているトップチーム・トップアスリートを「かわさきスポーツパートナー」として認定しています。区内には等々力緑地があり、その中にある「等々力陸上競技場」や「とどろきアリーナ」を拠点として活躍している「かわさきスポーツパートナー」と連携して各種スポーツ教室等を開催しています。選手等から直接指導を受けることのできる貴重な機会であるとともに、地域への愛着心の醸成や親子のふれあいなどにつながっています。



親子サッカードリーム教室

今後どうなっていくの？

中原区の人口のピークは、平成52（2040）年の29.6万人と推計されています。今後も続く人口増加を踏まえ、地域が一体となった安全・安心で活気のあるまちづくりを進めるとともに、将来の人口減少に転じた場合の課題やその解決方法を想定し、そこから振り返って現在すべきこと、できることを考え、住民自らが取組を進める支援をしていきます。

★ 市民の想い、メッセージ

- 普段買い物をしている商店街が交流の場となるとてもよい取組だと思います。こうした参加者同士の交流がコミュニティづくりにつながっていくと思います。

商店街と連携した地域のまちづくり推進事業アンケートより

● 区民が“つなげる”地域づくり

中原区では、子育て世代の転入などによる年少人口の急激な増加に対応する一方、将来の高齢化へ対応するための取組を今から進めていくことが課題となっています。このため、介護予防や健康づくり、生き方について考えるきっかけづくりといった「自助」、地域住民同士が互いに助け合い、支え合う「互助」を促進するための取組を積極的に進めています。

どんな取組みをしているの？

○ 地域で支え合う子育て！

子育て世代の転入が多い中原区では、親子の孤立を防ぎ、子育て中の不安を軽減するために、「子育てサロン」の運営を支援しています。地域のボランティアが中心となって、0歳から3歳までのお子さんとその保護者を対象に、親子遊びや季節の行事などを実施しています。また、武蔵小杉駅近くの商業施設においては、中原区子育てイメージキャラクター「ミメクロ」が登場する「ミメクロハッピータイム」を開催し、親子で楽しいひと時を過ごしてもらうとともに、保育士による親子遊びの紹介や子育てに役立つアドバイスなども行っています。



子育てサロン

○ 地域住民が主役です！

スポーツやボランティア活動が、認知症などのリスク軽減や健康増進につながるため、こうした活動を始めるきっかけづくりを進めています。地域で活動しているボランティアグループとの交流や、認知症や介護予防に関する講義や実技を体験する講座の開催などを通じて、外出の機会を増やし、他の人と交流したり助け合ったりする「自助」「互助」の取組の支援をしています。



地域でのふれあい体操

○ 「地区カルテ」を活用したまちづくり！

地域の様々なデータや地域特性、強み・弱みなどをまとめた「地区カルテ」を活用したまちづくりを進めています。住んでいる地域の課題を住民同士が共有するとともに、自らがその解決に向けて取り組んでいけるよう、モデル地区において住民参加型のワークショップを開催するなど、地域の意識改革を図っています。



地区カルテを活用したワークショップ
(大戸地区)

今後どうなっていくの？

住民自ら地域の課題について考え、主体的に解決していけるような住民同士のつながりや地域づくりを進めていく「互助」の取組を支援していきます。また、地域の子育て支援として、公立保育所を中心に地域子育て支援センターやこども文化センター等と連携を深めながら、地域の実情に応じたきめ細やかな子育て支援施策を展開していきます。

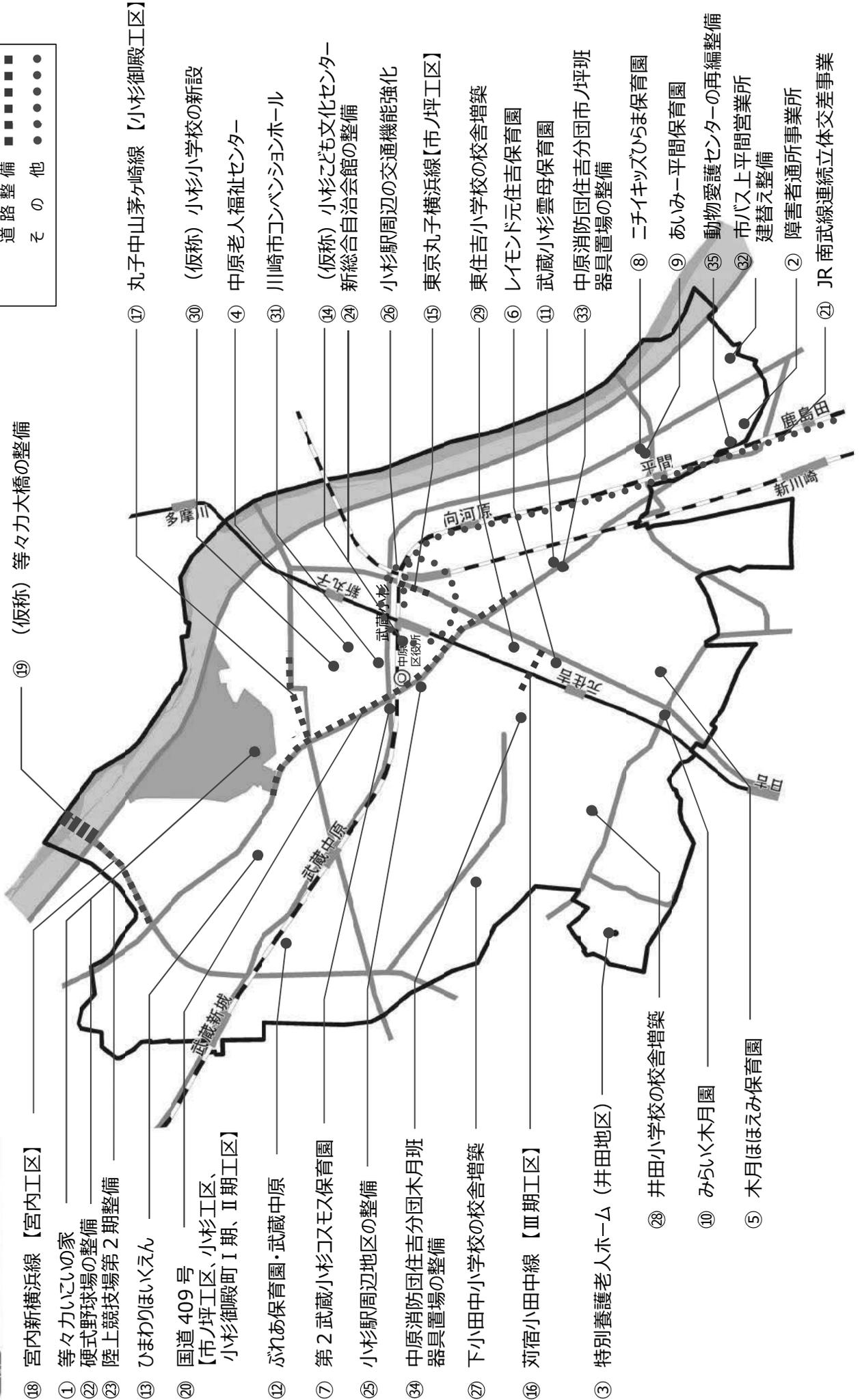
★ 市民の想い、メッセージ

- 自分らしく楽しく生きるために、働く世代（私たち）がどうしたら老後のことを考えて向き合うことができるか？介護・福祉に携わっていない人々への働きかけが必要だと思います。

川崎市地域マネジメント推進事業ワークショップアンケートより

中原区マップ

凡例	施設整備等
	道路整備
	その他



- ⑬ 宮内新横浜線【宮内工区】
- ① 等々力こいの家
- ② 硬式野球場の整備
- ③ 陸上競技場第2期整備
- ⑬ ひまわりほいくえん
- ⑳ 国道409号【市ノ坪工区、小杉工区、小杉御殿町Ⅰ期、Ⅱ期工区】
- ⑫ ぶれあ保育園・武蔵中原
- ⑦ 第2武蔵小杉コスモス保育園
- ⑫ 小杉駅周辺地区の整備
- ⑭ 中原消防団住吉分団木月班器具置場の整備
- ⑫ 下小田中小学校の校舎増築
- ⑯ 荻宿小田中線【Ⅲ期工区】
- ③ 特別養護老人ホーム（井田地区）
- ⑫ 井田小学校の校舎増築
- ⑩ みらいく木月園
- ⑤ 木月ほほえみ保育園
- ⑮ 丸子中山茅ヶ崎線【小杉御殿工区】
- ⑳ (仮称) 小杉小学校の新設
- ④ 中原老人福祉センター
- ⑳ 川崎市コンベンションホール
- ⑭ (仮称) 小杉こども文化センター
- ⑭ 新総合自治会館の整備
- ⑫ 小杉駅周辺の交通機能強化
- ⑮ 東京丸子横浜線【市ノ坪工区】
- ⑫ 東住吉小学校の校舎増築
- ⑥ レイモンド元住吉保育園
- ⑪ 武蔵小杉雲母保育園
- ⑬ 中原消防団住吉分団市ノ坪班器具置場の整備
- ⑧ ニチキッズひらま保育園
- ⑨ あいみー平間保育園
- ⑮ 動物愛護センターの再編整備
- ⑫ 市バス上平間営業所建替え整備
- ⑫ 障害者通所事業所
- ⑫ JR南武線連続立体交差事業

区のマップとの対応表

福祉施設

名称	開所予定	定員	MAP 番号
等々力いの家	H32(2020)	-	①
障害者通所事業所	H32(2020)	生活介護 80 人 短期入所 12 人	②
特別養護老人ホーム (井田地区)	H31(2019)	128 人 短期入所 20 人	③
中原老人福祉センター	H37(2025)	-	④
木月ほほえみ保育園	H30(2018)	60 人	⑤
レイモンド元住吉保育園	H30(2018)	70 人	⑥
第2武蔵小杉コスモス保育園	H30(2018)	70 人	⑦
ニチキッズひらま保育園	H30(2018)	60 人	⑧
あいみー平間保育園	H30(2018)	60 人	⑨
みらいく木月園	H30(2018)	60 人	⑩
武蔵小杉雲母保育園	H30(2018)	60 人	⑪
ぶれあ保育園・武蔵中原	H30(2018)	60 人	⑫
ひまわりほいくえん	H30(2018)	40 人	⑬
(仮称) 小杉こども文化センター	H32(2020)	-	⑭

道路・公園

名称	事業概要	事業予定	MAP 番号
東京丸子横浜線 【市ノ坪工区】	道路拡幅	H33(2021) 完成	⑮
苅宿小田中線【Ⅲ期工区】	道路拡幅	事業推進	⑯
丸子中山茅ヶ崎線 【小杉御殿工区】	道路拡幅、新設道路	事業推進	⑰
宮内新横浜線【宮内工区】	新設道路	事業推進	⑱

(仮称) 等々力大橋の整備	橋りょう整備	事業推進	MAP 番号
国道 409 号 【市ノ坪工区、小杉工区、 小杉御殿町 Ⅰ期・Ⅱ期工区】	道路拡幅	事業推進	⑲
J R 南武線連続立体交差事業	事業化に向けた取組	事業推進	⑳
硬式野球場の整備	等々力緑地の再編整備	H32(2020)完成	㉑
陸上競技場第 2 期整備	等々力緑地の再編整備	H33(2021)着手 H36(2024)完成	㉒

その他

名称	事業概要	事業予定	MAP 番号
新総合自治会館の整備	市街地再開発事業による 整備	H32(2020) 供用開始	㉔
小杉駅周辺地区の整備	総合自治会館跡地の整備	事業推進	㉕
小杉駅周辺の交通機能強化	駅及び駅周辺の混雑状況 に対する安全性・利便性の 向上	事業推進	㉖
下小田中小学校の校舎増築	校舎の増築工事	H30(2018)完成	㉗
井田小学校の校舎増築	校舎の増築工事	H30(2018)完成	㉘
東住吉小学校の校舎増築	校舎の増築工事	H31(2019)着手 H32(2020)完成	㉙
(仮称) 小杉小学校の新設	児童生徒の増加に対応した 小学校の新設	H31(2019) 開校	㉚
川崎市コンベンションホール	オープン/ナビゲーションの交流 拠点として整備	H30(2018) 供用開始	㉛
市バス上平間営業所 建替え整備	老朽化等による建替え整備	H33(2021) 完成	㉜
中原消防団住吉分団 市ノ坪班器具置場の整備	消防団器具置場の整備	H31(2019) 完成	㉝
中原消防団住吉分団 木月班器具置場の整備	消防団器具置場の整備	H33(2021) 完成	㉞
動物愛護センターの再編整備	動物愛護センターの移転	H30(2018) 供用開始	㉟

地域の課題解決に向けた取組の一覧	事業名（○は本計画で「計画期間の主な取組」として掲載している事業）
地域活性化に向けたコミュニティづくりの推進	
○	小杉駅周辺の新たなコミュニティ推進事業
○	中原区広報・広聴推進事業
○	商店街と連携した地域のまちづくり推進事業
○	市民活動活性化事業
○	案内サイン情報更新事業
	まちづくり推進実践活動事業
	中原区イメージアップ推進事業
	区民祭開催経費
安全・安心なまちづくりの推進	
○	地域防災力強化事業
○	中原区安全・安心まちづくり推進事業
○	交通安全教室開催事業
○	放置自転車対策事業
	中原区ガイドマップ(安心マップ)作成事業
	自転車と共生するまちづくり事業
区民と協働したこども支援の推進	
○	中原区子育て支援推進事業
○	子育て情報発信事業
○	公的児童施設有効活用事業
○	子育て支援者養成事業
	働く親世代の子育て支援事業
	中原区子どもの発達支援事業
	幼稚園・保育園・小学校連携事業
	中原区保育所等人材育成・連携事業
人と人との出会いを橋わたしする地域福祉の活性化	
○	中原区地域包括ケアシステム推進事業
○	なかはら福祉健康まつり実施事業
スポーツ・文化資源・みどりなどの地域資源を活用したまちづくりの推進	
○	スポーツを通じた地域活性化推進事業
○	In Unity開催事業
○	中原区青少年吹奏楽コンサート事業
○	区民の手で花いっぱい中原事業
	環境まちづくり支援事業
	中原区民総ぐるみスポーツ大会開催事業
	中原区体育及びスポーツ振興事業
	中原区民多摩川ロードレース「マイベース大会」開催事業
	中原区役所コンサート開催事業
	歴史と緑を活用したまちの魅力発信事業
区役所サービスの環境改善	
○	区役所サービス向上事業
○	区役所混雑緩和・環境改善事業
地域課題対応その他事業	
	中原区市民提案型事業
	地域課題対応事業一般経費
区の新たな課題即応事業	
	区の新たな課題即応事業